

さ さ さ わ か む ら
笹 沢 I 遺 跡 ・ 加 村 遺 跡
な く み さ か い の か み
仲 組 III 遺 跡 ・ 堺 ノ 神 遺 跡

市道浦の沢線改良工事関係
埋蔵文化財発掘調査報告書



1995.3

岩手県宮古市教育委員会

笹沢Ⅰ遺跡・加村遺跡 仲組Ⅲ遺跡・堺ノ神遺跡

～市道浦の沢線改良工事関係
埋蔵文化財発掘調査報告書～



重茂半島北部航空写真

Photo. 1

1995.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

宮古市の東にある重茂半島は本州最東端の鮭ヶ崎灯台を有することでも名高く、太平洋に臨む海岸では種々の漁業が盛んに営まれ、今なお原生林を残す山間部は豊かな山の幸をもたらす源となっております。

この豊かな自然環境が実に長い歴史を育んできたことが、近年の発掘調査などで明らかになってきております。先年の千鶏遺跡では5、6千年前の大集落跡が発見され、また重茂館遺跡群では、ごく小規模な調査でしたが4、5千年前の土器が大量に出土しております。

今回、半島北部の笹沢地区から塚ノ神地区で行われた調査では、これまでのものをさらに遡る市内で最古の土器を伴った遺構が見つかっております。遺跡の広がりもさることながら、連綿と続く半島の歴史の長さにはあらためて驚かされます。

これらの貴重な資料が重茂半島の歴史、延いては宮古市の歴史の解明のために大いに活用されることを願っております。

最後に、調査にあたり御指導、御協力いただきました関係各位に衷心より感謝申し上げて序文といたします。

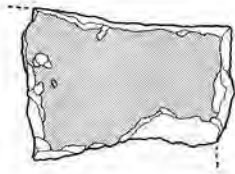
平成7年3月

宮古市教育委員会

教育長 佐藤 勇 逸

例 言

1. 本書は、平成4年度から平成6年度に行われた笹沢Ⅰ遺跡、加村遺跡、仲組Ⅲ遺跡、界ノ神遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査の主体は、宮古市教育委員会（教育長 佐藤勇逸）であり、発掘調査は平成4年度が阿部、平成5年度は橋本、平成6年度については竹下、工藤がそれぞれ担当した。本書の執筆は阿部、工藤が担当し、編集は竹下が行い、高橋、鎌田、橋本がこれを補佐した。
3. 調査座標は任意とし、高さは標高値をそのまま使用した。
4. 遺物の表現については、磨面を次のように示した。



5. 土層観察に際しては、「新版標準土色帖」(1990年版)を参考とした。

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 調査経過	1
1. 調査に至る経過	
2. 調査要旨	
3. 調査体制	
II 遺跡の立地と環境	3
III 調査内容	8
1. 第1調査地区(笹沢Ⅰ遺跡)	8
2. 第2調査地区(加村遺跡第1次調査)	14
3. 第3調査地区(加村遺跡第2次調査)	16
4. 第4調査地区(仲組Ⅲ遺跡)	40
5. 第5調査地区(堺ノ神遺跡)	43
IV 調査のまとめ	48

挿 図 目 次

第1図	重茂半島の遺跡	2
第2図	地形分類と遺跡分布	3
第3図	重茂半島北部の遺跡群	4
第4図	調査地区位置図	6
第5図	第1調査地区(笹沢Ⅰ遺跡)全体図、土層断面図	8
第6図	第1号竪穴状遺構、第1号土坑平面図、土層断面図	9
第7図	第1号竪穴状遺構出土土器	9
第8図	第1号竪穴状遺構他出土遺物	10
第9図	第2調査地区(加村遺跡第1次調査)全体図、土層断面図	14
第10図	第3調査地区(加村遺跡第2次調査)全体図	17
第11図	N R区平面図、土層断面図	19
第12図	第1号、第2号フラスコ状土坑平面図、土層断面図	20
第13図	N R区出土遺物	21
第14図	S R区平面図、土層断面図	23
第15図	第3号墓壙、第4号土坑平面図、土層断面図	24
第16図	第3号墓壙副葬銭拓影-1	25
第17図	第3号墓壙副葬銭拓影-2	26
第18図	第3号墓壙副葬銭拓影-3	27
第19図	第3号墓壙副葬銭拓影-4	28
第20図	S R区出土遺物	29
第21図	第4調査地区(仲組Ⅲ遺跡)全体図、土層断面図、出土遺物	40
第22図	第5調査地区(堺ノ神遺跡)全体図、土層断面図	43
第23図	第2号、第1号溝跡、第1号土坑平面図、土層断面図	44
第24図	出土遺物	44
第25図	出土遺物	45

写 真 目 次

Photo. 1	重茂半島北部航空写真	内表紙
Photo. 2	重茂半島北部垂直写真	5
Photo. 3	調査地区周辺垂直写真	7
Photo. 4	調査区全景	11
Photo. 5	調査区北部	11
Photo. 6	第1号竪穴状遺構	12
Photo. 7	第1号土坑	12
Photo. 8	第1号竪穴状遺構出土遺物	13

Photo. 9	第1号竖穴状遺構出土遺物	13
Photo.10	調査状況	15
Photo.11	調査状況	15
Photo.12	加村遺跡全景	30
Photo.13	加村遺跡全景	30
Photo.14	N R区調査前の状況	31
Photo.15	遺構検出状況	31
Photo.16	第1号、第2号フラスコ状土坑	32
Photo.17	第1号フラスコ状土坑埋土状況	32
Photo.18	第2号フラスコ状土坑埋土状況	33
Photo.19	第2号フラスコ状土坑埋土状況	33
Photo.20	S R区遺構検出状況	34
Photo.21	第3号墓壇埋土状況	34
Photo.22	第3号墓壇	35
Photo.23	第3号墓壇副葬銭出土状況	35
Photo.24	第3号墓壇副葬銭直下遺物	36
Photo.25	第4号土坑埋土状況	36
Photo.26	第3号墓壇出土副葬銭	37
Photo.27	第3号墓壇出土副葬銭	37
Photo.28	第3号墓壇出土遺物	38
Photo.29	N R区出土遺物	38
Photo.30	S R区出土遺物	39
Photo.31	S R区出土遺物	39
Photo.32	調査前の状況	41
Photo.33	調査状況	41
Photo.34	調査区北部埋土状況	42
Photo.35	出土遺物	42
Photo.36	調査区北部トレンチ全景	45
Photo.37	調査区南半部	46
Photo.38	溝跡、土坑検出状況	46
Photo.39	出土遺物	47
Photo.40	出土遺物	47

付 表 目 次

表1	N R区出土円礫計測表	21
表2	第3号墓壇副葬銭計測表	28
表3	S R区出土円礫計測表	29

I 調査経過

1. 調査に至る経過

笹沢Ⅰ遺跡、加村遺跡、仲組Ⅲ遺跡、塚ノ神遺跡は、それぞれ宮古市遺跡コードL G 35-0184, L G 35-1123, L G 35-1177, L G 35-2117として登録されている周知の遺跡である。

調査は市道浦の沢線の改良工事に伴うものであり、当該遺跡内の工事区域を対象に記録保存を目的として平成4年度から平成6年度まで実施された。

2. 調査要旨

平成4年度

調査地 宮古市大字重茂第27地割字塚ノ神36-5

遺跡名 塚ノ神遺跡

調査期間 平成4年6月1日～平成4年7月18日

調査面積 450㎡

検出遺構 土坑1基、溝跡2条、遺物包含層

出土遺物 縄文時代中期土器

平成5年度

調査地 宮古市大字重茂第29地割字戸野崎9, 10, 114, 同第27地割字塚ノ神6-3, 10-2, 13-2, 10-1, 11

遺跡名 笹沢Ⅰ遺跡、加村遺跡、仲組Ⅲ遺跡

調査期間 平成5年11月16日～平成5年12月20日

調査面積 3080㎡

検出遺構 竪穴状遺構1基、土坑1基

出土遺物 縄文時代早期条痕文土器、磨石

平成6年度

調査地 宮古市大字重茂第28地割字千束25, 31、同第29地割字戸ノ崎114

遺跡名 加村遺跡

調査期間 平成6年10月11日～平成6年12月18日

調査面積 421㎡

検出遺構 墓壇1基、土坑1基、フラスコ状土坑2基、溝跡2条

出土遺物 永楽通寶、洪武通寶、縄文時代中期土器

3. 調査体制

調査総括 岩田 善弘 宮古市教育委員会社会教育課長（平成4, 5年度）

浦野 光廣 宮古市教育委員会社会教育課長（平成6年度）

事務担当 山崎 吉章 宮古市教育委員会社会教育係長（平成4, 5年度）

田鎖 春雄 宮古市教育委員会社会教育係長（平成6年度）

坂下 昇 宮古市教育委員会社会教育課庶務主査兼社会教育主事

調査員 竹下 将男 宮古市教育委員会社会教育課主任

高橋 憲太郎 宮古市教育委員会社会教育課主任

鎌田 祐二 宮古市教育委員会社会教育課主任

橋本 晃一 宮古市教育委員会社会教育課主事

調査員 三浦千秋 宮古市教育委員会社会教育課主事

阿部豊 宮古市教育委員会社会教育課埋蔵文化財調査員（非常勤）

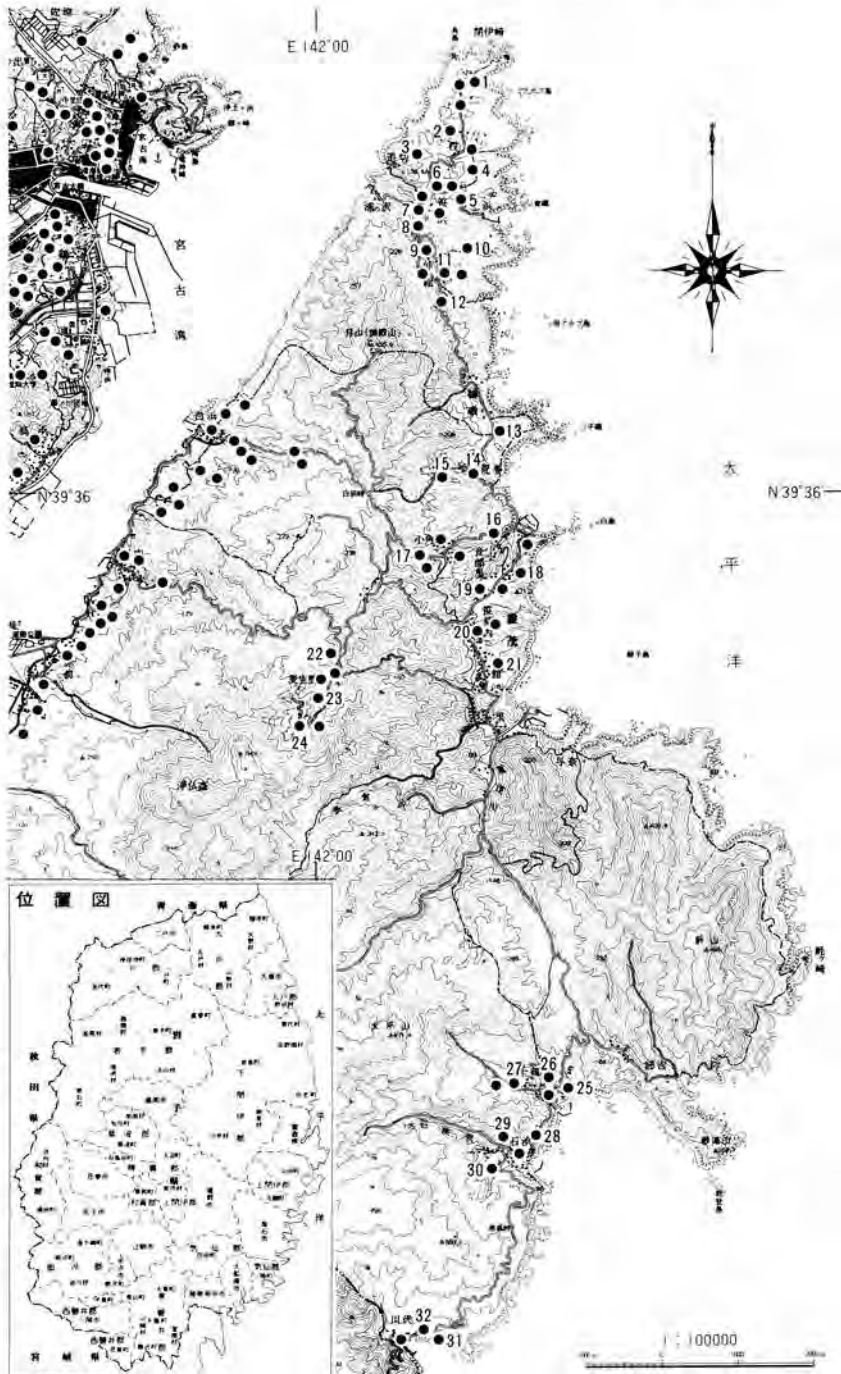
工藤剛司 宮古市教育委員会社会教育課埋蔵文化財調査員（非常勤）

調査の実施にあたり次の各位から多大な御協力をいただきました。記して感謝申し上げます。（敬称略）

〈地権者〉 野崎泰司、加村秀雄、加村文子、木村キン、佐々木市蔵、戸村惣次郎

〈発掘調査〉 古館友三、吉田昭、佐伯裕則、北村忠治、佐々木茂実、中居磯雄、今津東一、木村博、坂下節朗、山根一郎、水本正男、山内専太郎、中嶋正裕、松尾喜一郎、在原正利、佐野利男、三浦力、福士祐二、島田義道、藤井洋一、小野寺青治郎、菊池清八、小成裕信、盛崎次雄、三浦貞行、佐々木紀行、前川友宏

〈整理作業〉 永田美弥子、久保田チエ、中村明子、佐々木ヨシ子、久保田加代子



番号	遺跡コード	遺跡名称
1	LG25-2211	大浜 I
2	LG25-2187	大程 I
3	LG35-0113	追切
4	LG35-0230	大程 III
5	LG35-0179	立浜
6	LG35-0155	笹沢 III
7	LG35-0184	笹沢 I
8	LG35-1123	加村
9	LG35-1144	赤なしが沢
10	LG35-1240	仲組 I
11	LG35-1177	仲組 III
12	LG35-2117	堺ノ神
13	LG45-0247	鶴磯
14	LG45-1222	荒巻 I
15	LG45-1137	荒巻 II
16	LG45-2225	音部大下
17	LG45-2154	小角柄 IV
18	LG45-2268	音部谷地頭 II
19	LG45-2294	音部追磯
20	LG55-0242	笹見内 I
21	LG55-0284	重茂館遺跡群
22	LG55-0083	麦生野 I
23	LG55-1052	麦生野 IV
24	LG54-1379	麦生野 VI
25	LG75-0354	千鷲 I
26	LG75-0332	千鷲 III
27	LG75-0248	千鷲 IV
28	LG75-1311	千鷲 VI 川向
29	LG75-1227	石浜 II
30	LG75-1264	石浜 III
31	LG85-0188	川代 I
32	LG85-0176	川代 II

第 I 図 重茂半島の遺跡

II 遺跡の立地と環境

本遺跡の位置する重茂半島は、宮古市の東に位置し、太平洋に向かって北東方向に突き出した半島である。

半島の地形を概観すると、山地（十二神山山地）がその主体を占め、周辺部に丘陵地（鮎ヶ崎丘陵）が形成され、これを断崖を成す海岸線が囲む状況となっている。

半島基部の十二神山（海拔731m）の東西にのびる尾根が山田町との境になっており、半島の先端部にむかって北に延びる尾根が半島を東西に二分している。遺跡は、鮎ヶ崎丘陵及び、この中に見られる緩斜面、扇状地に立地する。

重茂半島に分布する遺跡は、4区域に大別できる。

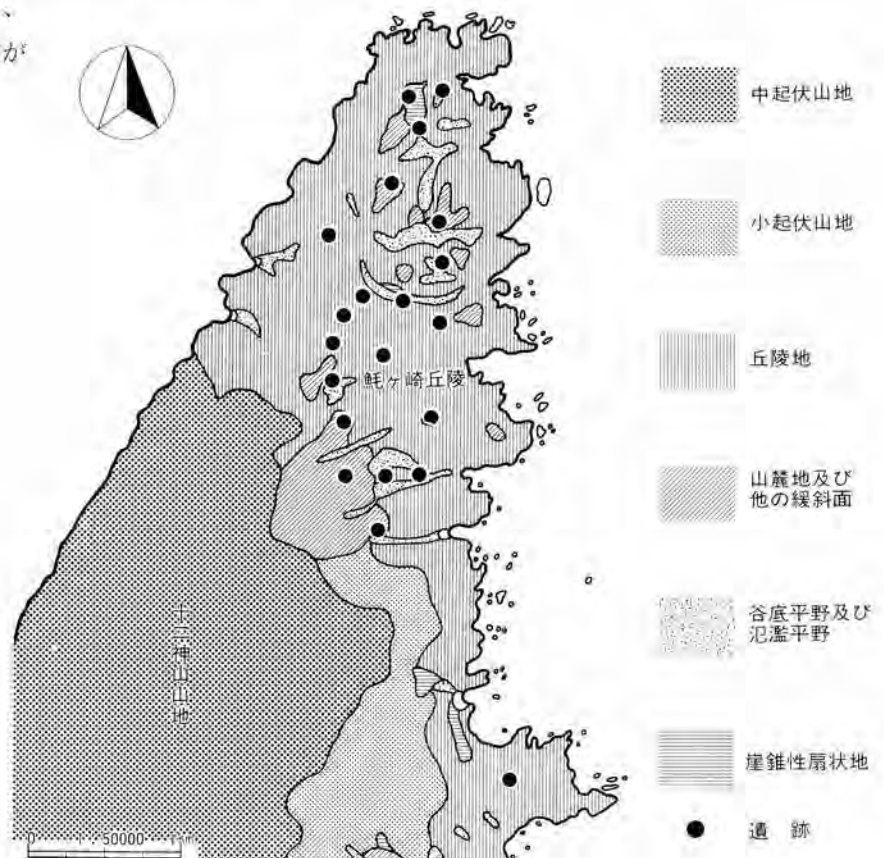
第1は、半島西側の宮古湾に面した小堀内、赤前地区で、奈良～平安時代の竪穴住居跡、製鉄関連の遺構が検出されている地域である。

第2は、半島先端部である堺ノ神～大程地区で、今回の調査区である。大半が縄文時代の遺跡であり、赤なしが沢遺跡では前期後半から中期にかけての土器が大量に出土している。

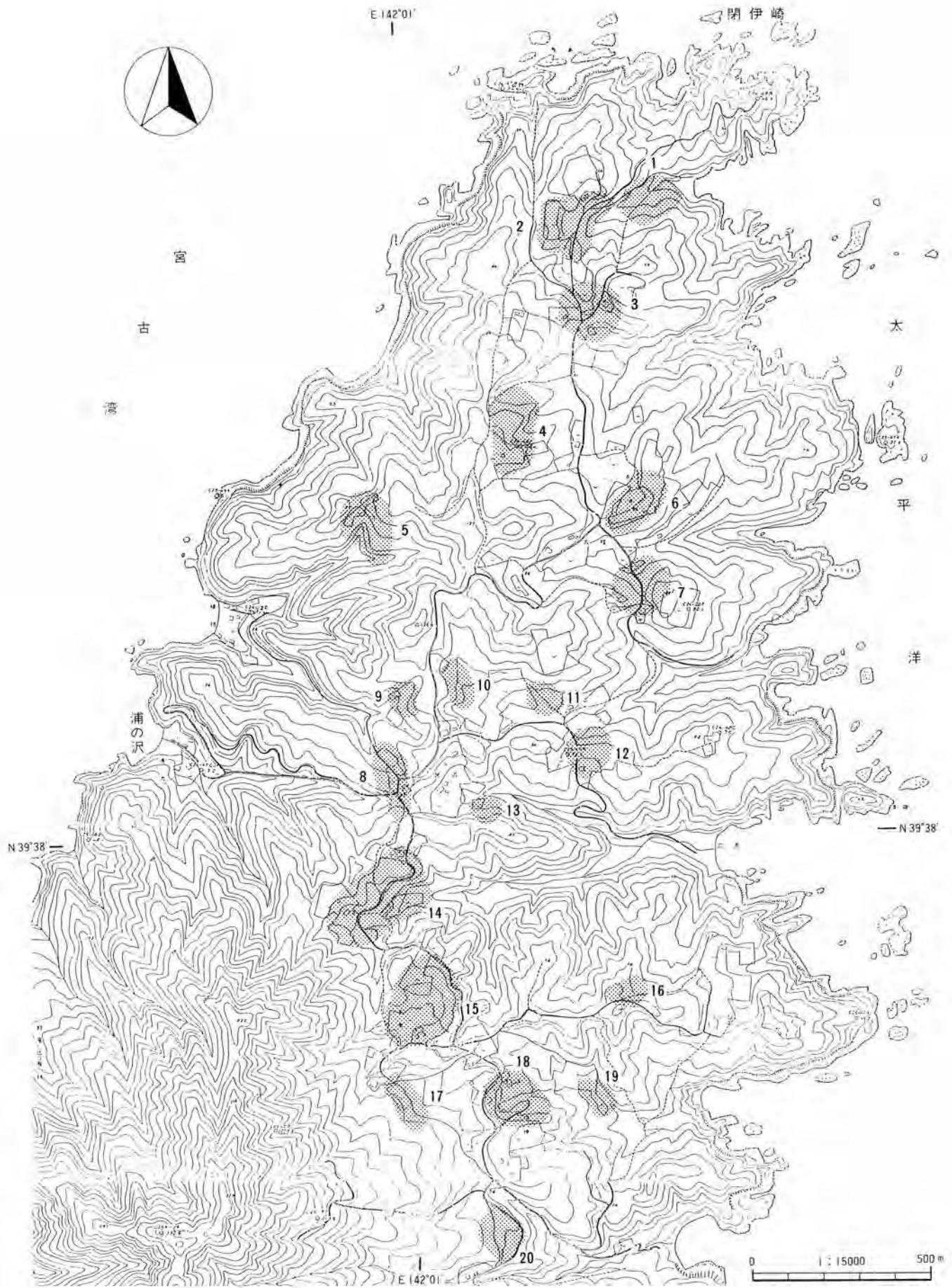
第3は、半島中央部の麦生野～館地区である。重茂館遺跡群など大規模な遺跡が見られる地域である。館跡などの中世の遺跡も存在するが、遺跡の主体は縄文時代のものである。重茂館遺跡群では平成2年度の調査で、縄文時代中期初頭から末葉と、後期・晩期の土器が出土した遺物包含層が確認されている。

第4は、半島南東部の千鷲～川代地区の縄文時代の遺跡である。千鷲地区では、表採資料として縄文時代早期から後期にかけての土器が確認されている。

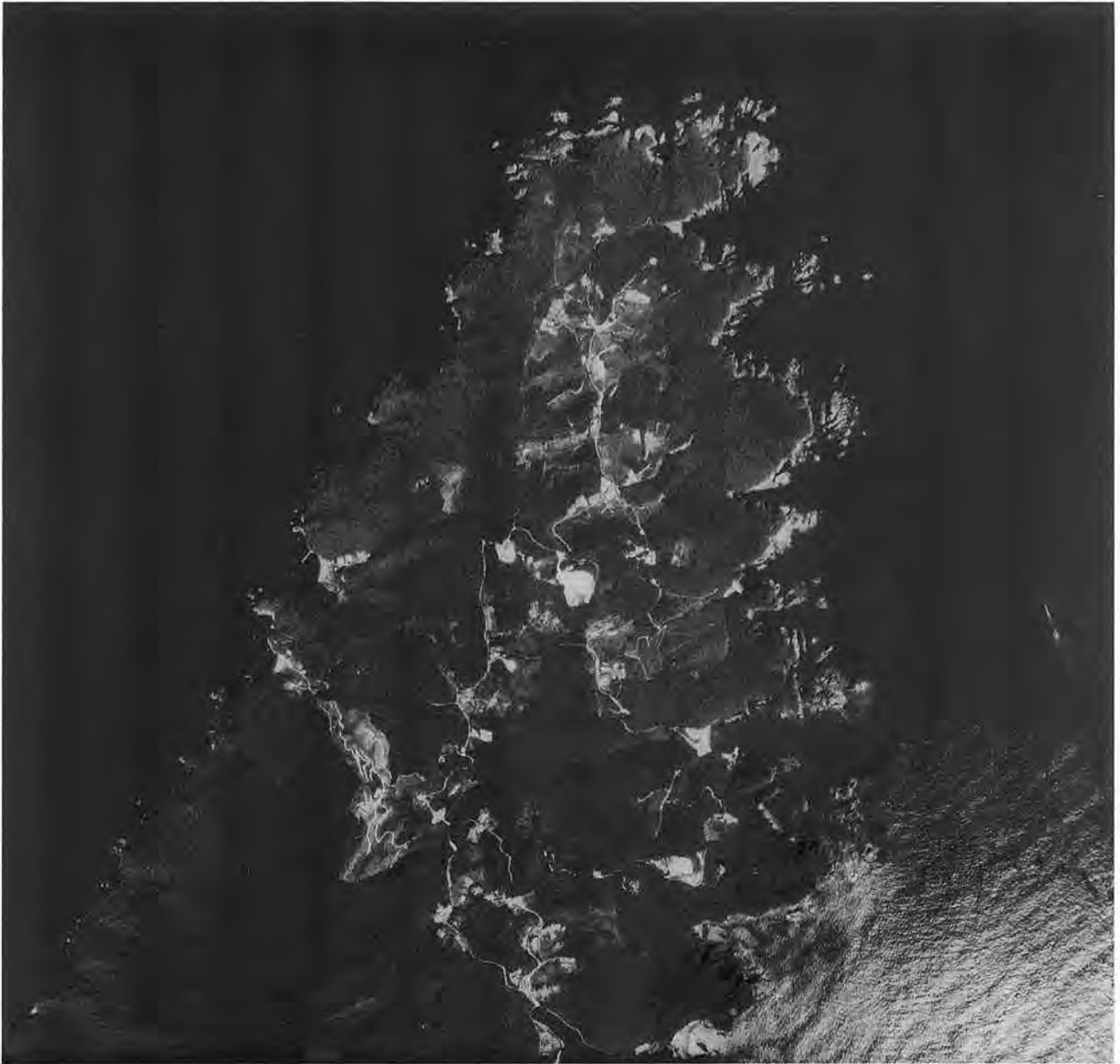
昭和62年の千鷲遺跡の調査では、縄文時代前期初頭の竪穴住居跡が34棟検出されている。



第2図 地形分類と遺跡分布



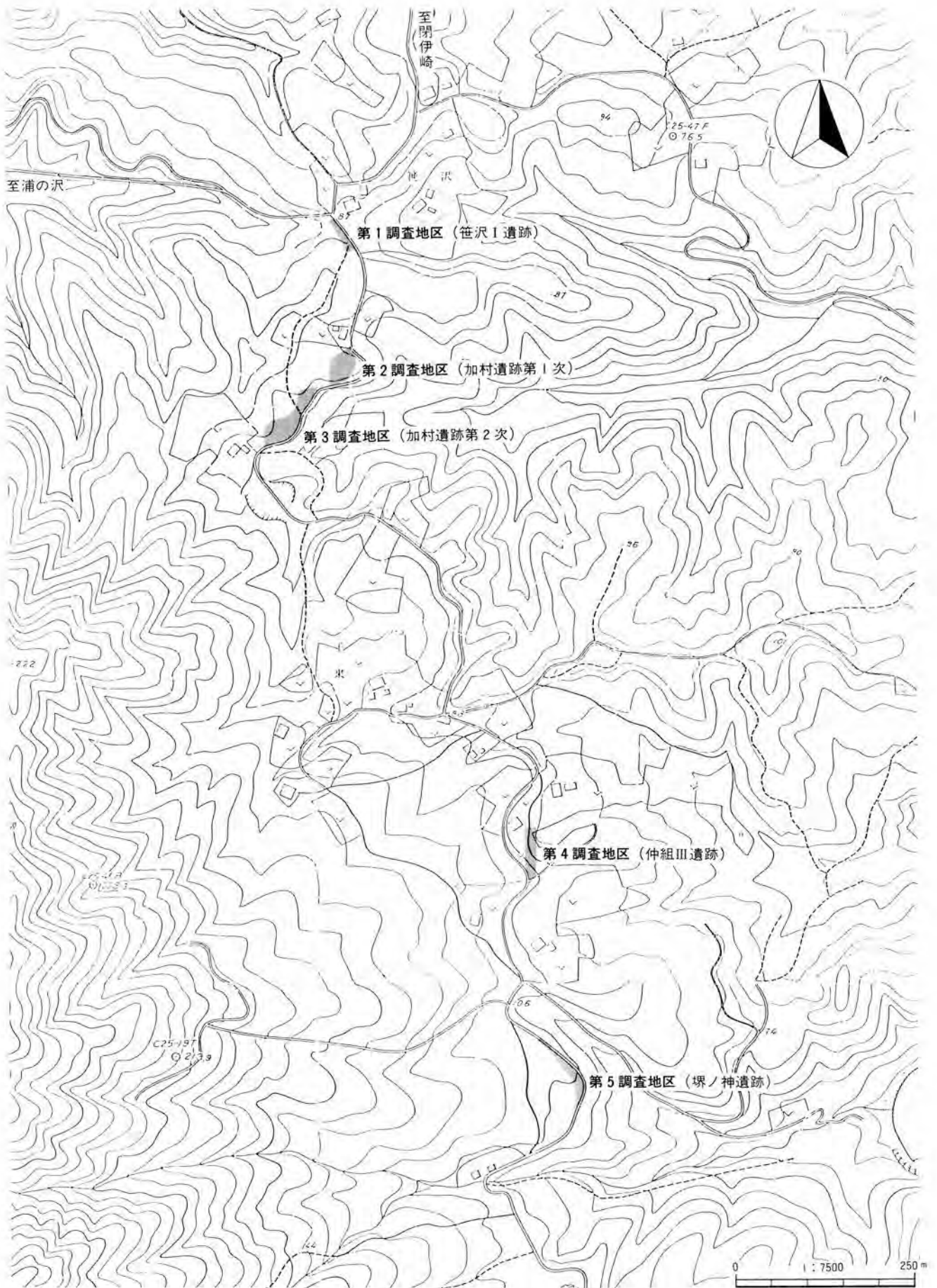
第3図 重茂半島北部の遺跡群



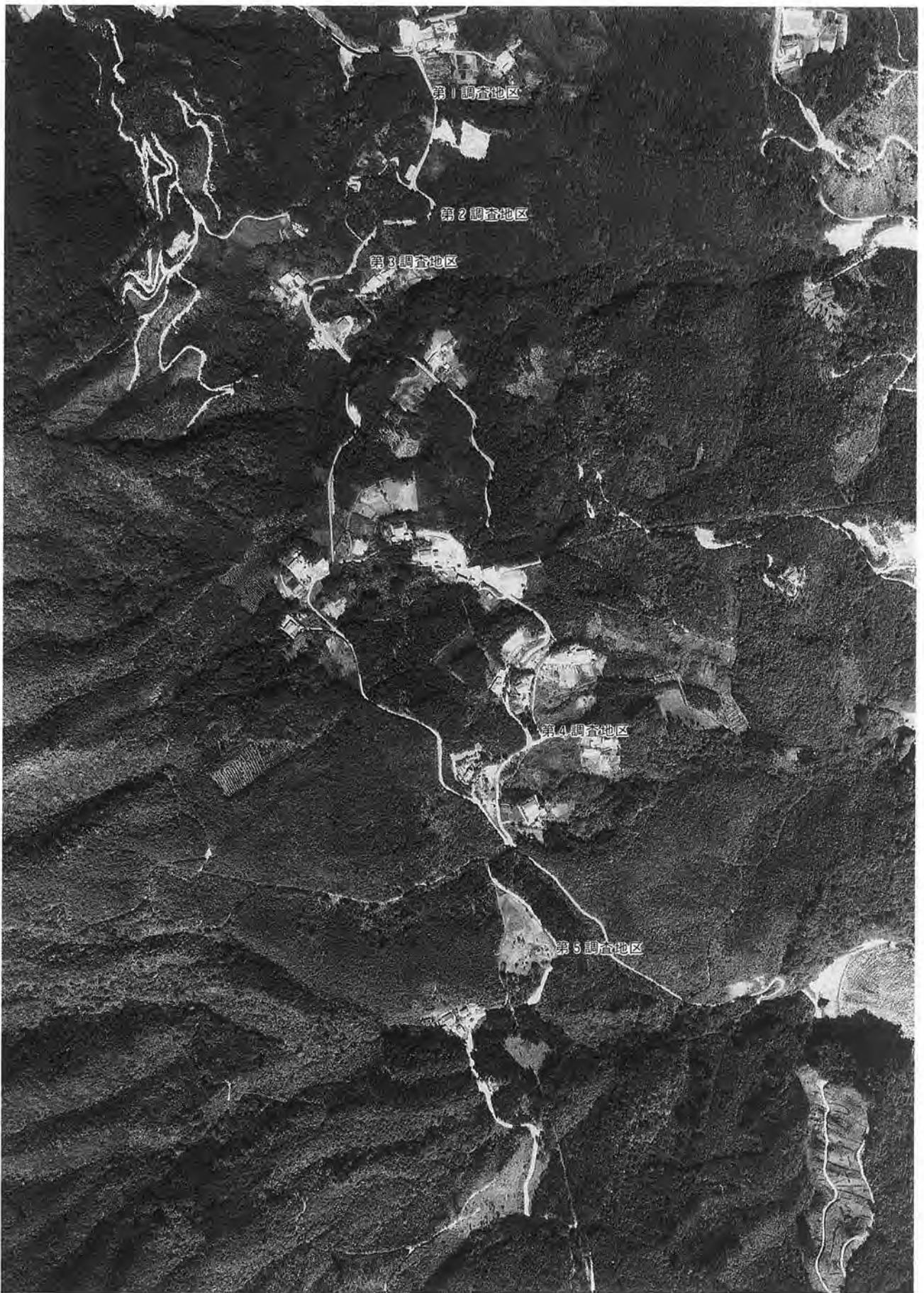
重茂半島北部垂直写真

Photo.2

番号	遺跡コード	遺跡名称	遺構遺物	番号	遺跡コード	遺跡名称	遺構遺物
1	LG25-2211	大浜Ⅰ	縄文時代土器	11	LG35-0168	笹沢田Ⅳ	縄文時代土器
2	LG25-1129	大浜Ⅱ	縄文時代前・中・後・土師器	12	LG35-0179	立浜	縄文時代前期・中期土器
3	LG25-2159	平浜	縄文時代中期・後期土器	13	LG35-0196	笹沢Ⅴ	縄文時代土器
4	LG25-2187	大程Ⅰ	縄文時代前・中・後期土器	14	LG35-1123	加村	縄文時代後期・晩期土器
5	LG35-0113	追切	縄文時代中期・後期土器	15	LG35-1144	赤なしが沢	縄文時代前・中・後期土器
6	LG35-0201	大程Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	16	LG35-1240	仲組Ⅰ	縄文時代土器
7	LG35-0230	大程Ⅲ	縄文時代土器	17	LG35-1174	仲組Ⅱ	縄文時代土器
8	LG35-0184	笹沢Ⅰ	縄文時代土器	18	LG35-1177	仲組Ⅲ	縄文時代土器
9	LG35-0164	笹沢Ⅱ	縄文時代土器	19	LG35-1179	仲組Ⅴ	縄文時代土器
10	LG35-0155	笹沢Ⅲ	縄文時代土器	20	LG35-2117	堺ノ神	縄文時代土器



第4図 調査地区位置図



調査地区周辺垂直写真

Photo.3

III 調査内容

1. 第1調査地区（笹沢I遺跡）

調査区は、丘陵部の標高84m前後の緩斜面である。

堆積土は3層に分かれる。I層は暗褐色シルト質埴土、II層は褐色シルト質埴土、III層が暗褐色シルト質埴壤土である。

調査区の北で竪穴状遺構が1基、南で土坑が1基、いずれも地山面から検出している。

第1号竪穴状遺構（第6図）

規模は、平面が径2.0mの不整円形を呈し、壁高は約0.2mである。

埋土は2層に細分される。A1層は暗褐色シルト質埴土、A2層は、褐色シルト質埴壤土である。A2層から土器と石器が出土している。

遺物は、18をのぞいて、すべてA1層から出土したものである（第7、8図）。

土器はいずれも内外面ともに条痕文が施されており、繊維は含んでいない。

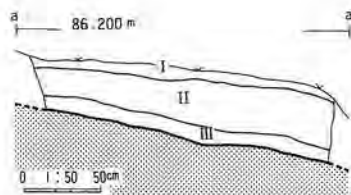
条痕の巾は0.5～2.0mmで、内外面ともに左上方から右下方に施文されている。

1は口縁部で、やや外傾する平縁である。2～5は体部で、粘土紐の積上痕が疑似口縁状となって残る。17は器厚がやや厚く体部下半の破片とみられる。19は楕円形礫の一側面を使用した磨石であり、一端に打痕が見られる。

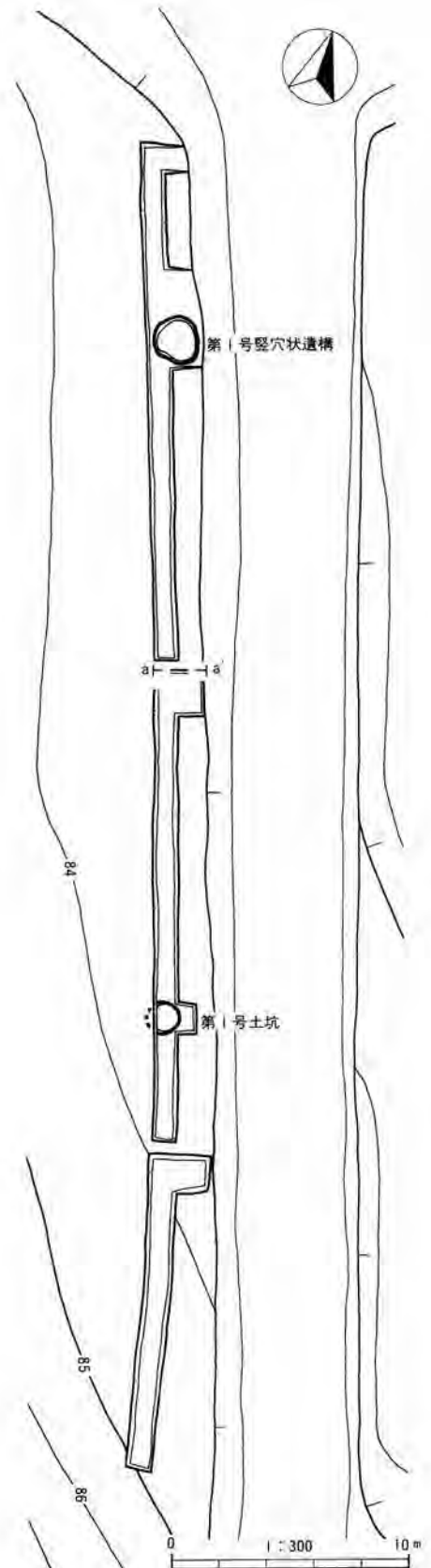
第1号土坑（第6図）

規模は、平面が径1.3mの円形を呈し、深さは最深部で0.25mである。

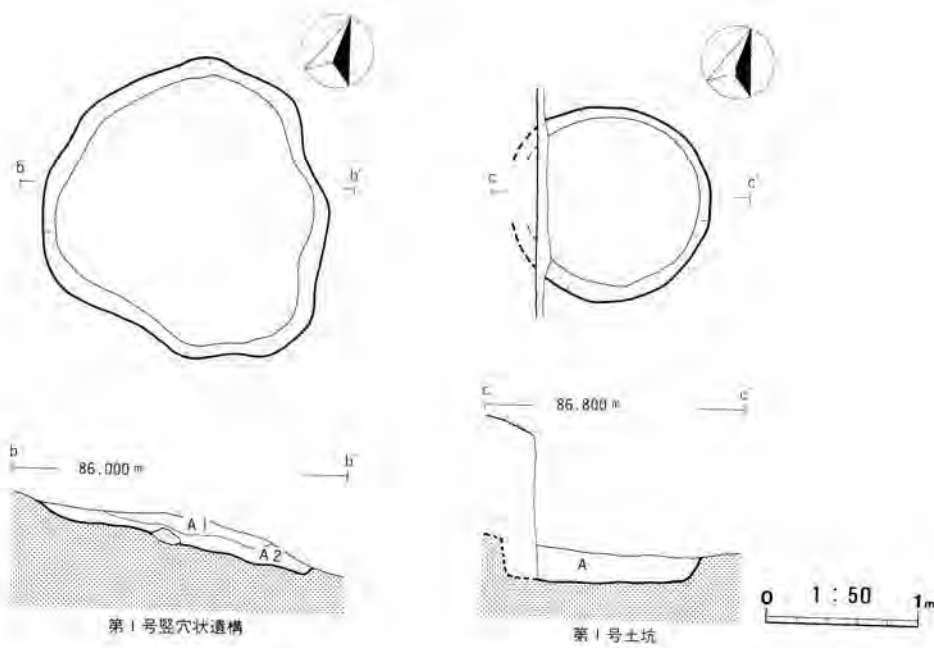
埋土は褐色シルト質埴壤土で、遺物は出土していない。



層名	基本土	混入土
表土	I 10YR3/4暗褐色シルト質埴土	10YR4/4褐色シルト質埴壤土5%塊状混入
褐色土	II 10YR4/6褐色シルト質埴土	10YR3/4暗褐色シルト質埴土5%塊状混入
暗褐色土	III 10YR3/3暗褐色シルト質埴壤土	10YR3/4暗褐色シルト質埴土10%塊状混入



第5図 第1調査地区（笹沢I遺跡）全体図、土層断面図



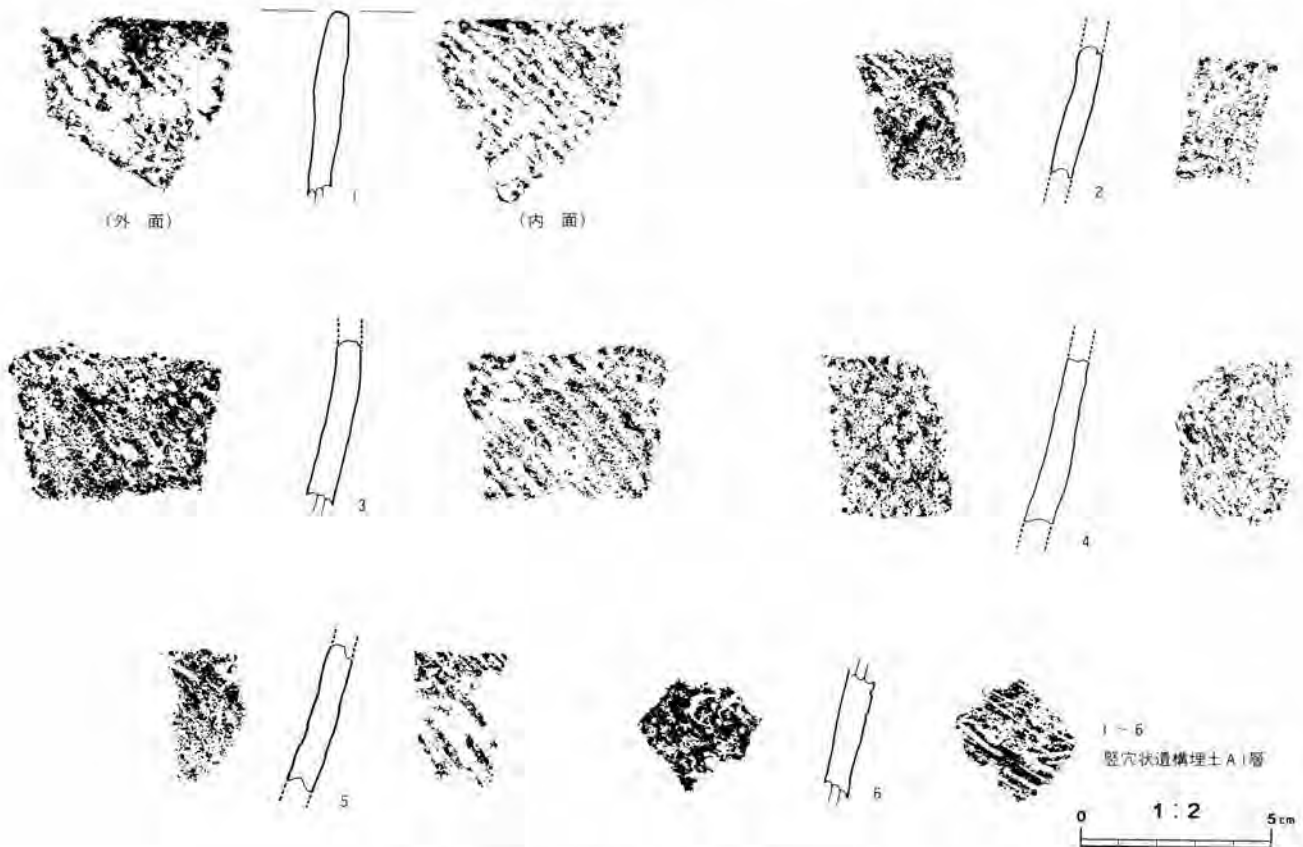
層名	基本土	混入土
埋土 A1	10YR3/4暗褐色シルト質埴土	10YR4/6褐色シルト質埴壤土10%塊状混入 土器を含む
埋土 A2	10YR4/6褐色シルト質埴壤土	10YR4/4褐色シルト質埴壤土15%塊状混入

埋土 A	10YR4/6褐色シルト質埴壤土	10YR3/3暗褐色シルト質埴土10%塊状、10YR3/4暗褐色シルト質埴土20%塊状混入
------	------------------	---

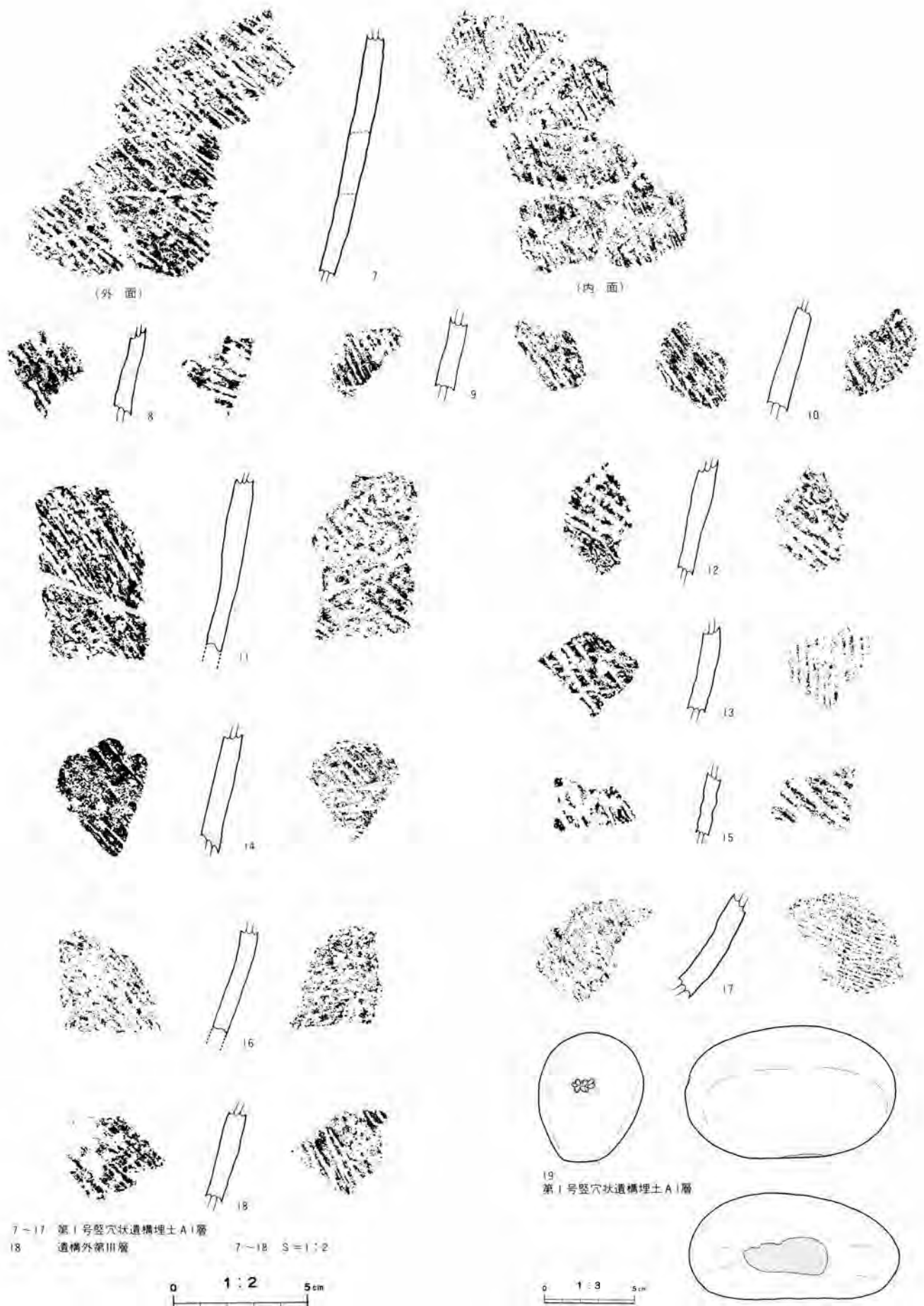
第1号竖穴状遺構埋土

第1号土坑埋土

第6図 第1号竖穴状遺構、第1号土坑平面図、土層断面図



第7図 第1号竖穴状遺構出土土器

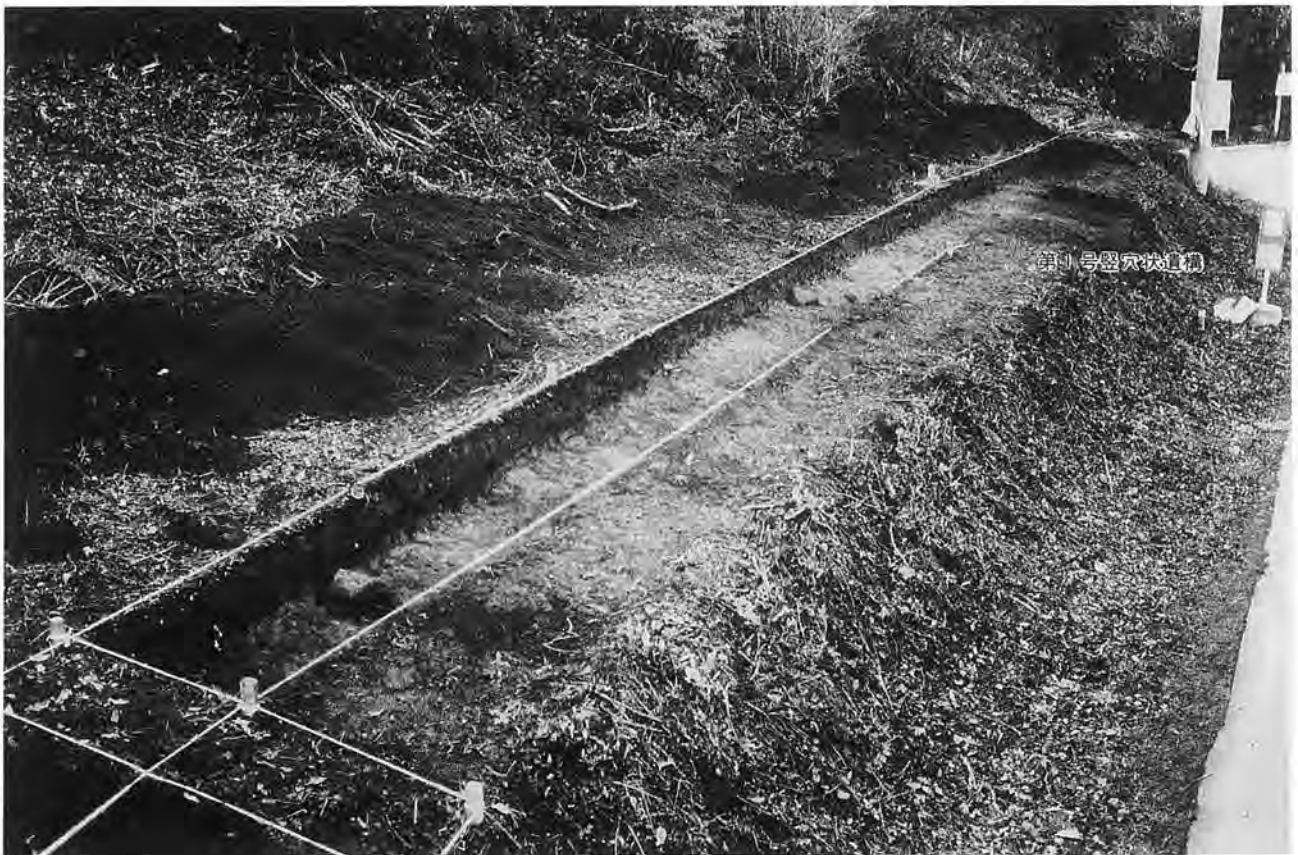


第8图 第1号竖穴状遺構他出土遺物



調査区全景（南より）

Photo.4



調査区北部（南東より）

Photo.5

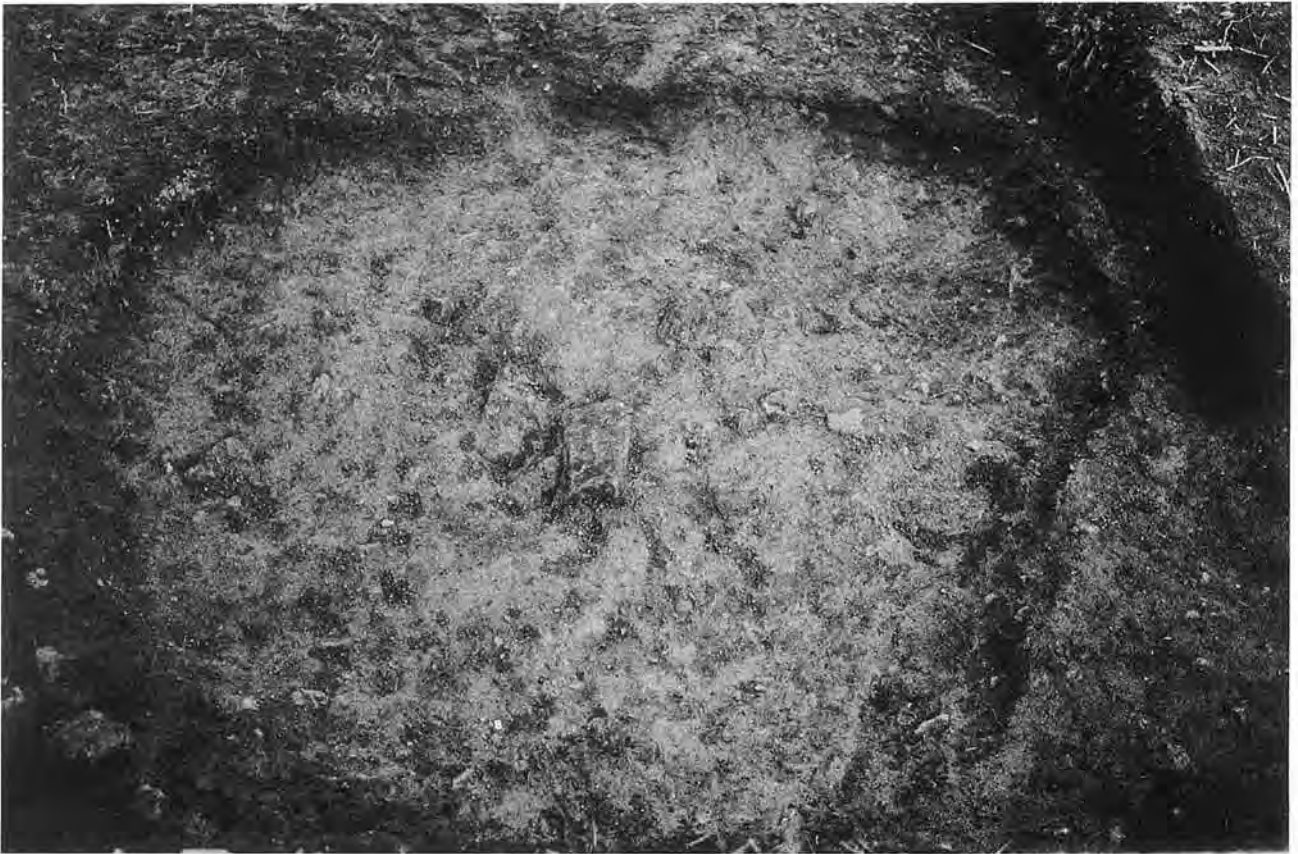


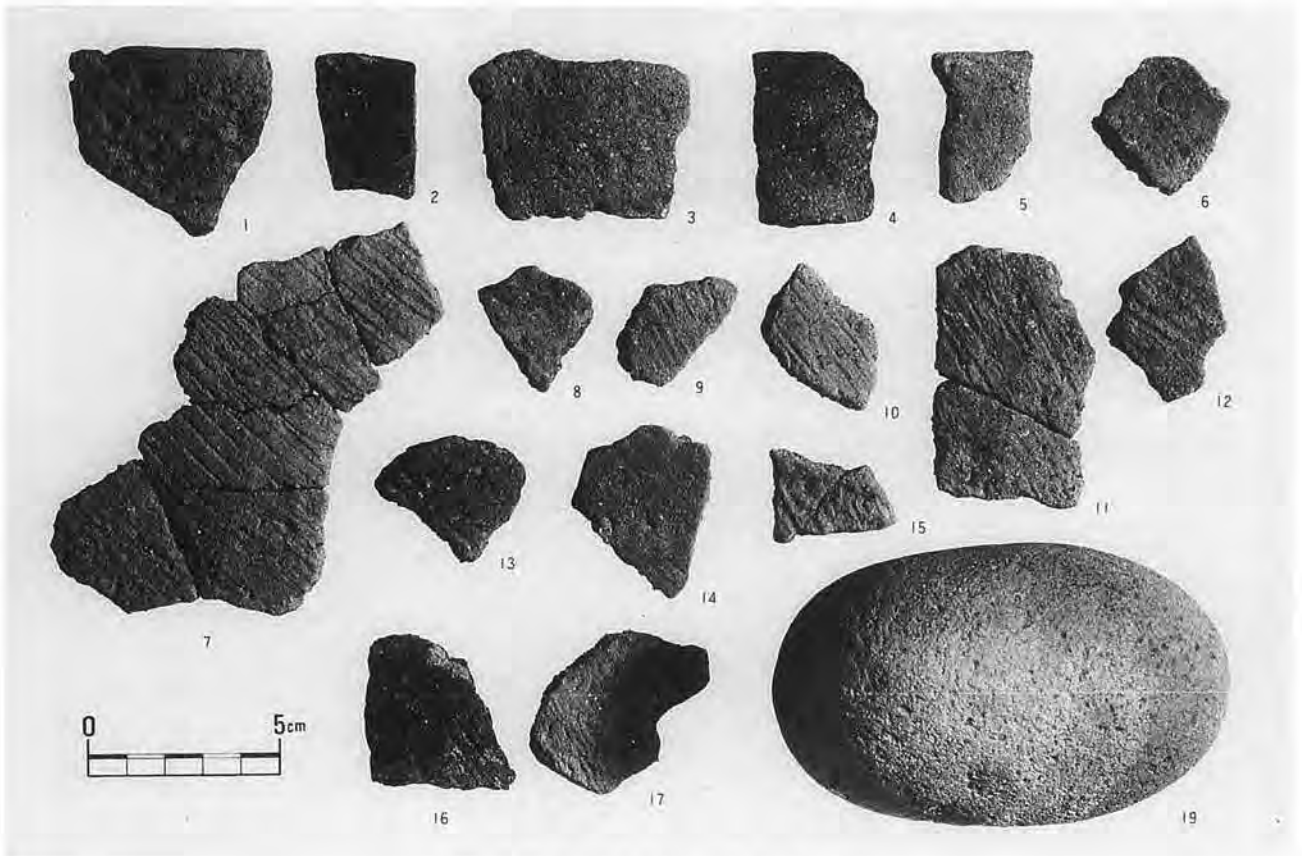
Photo.6

第1号竖穴状遺構（西より）



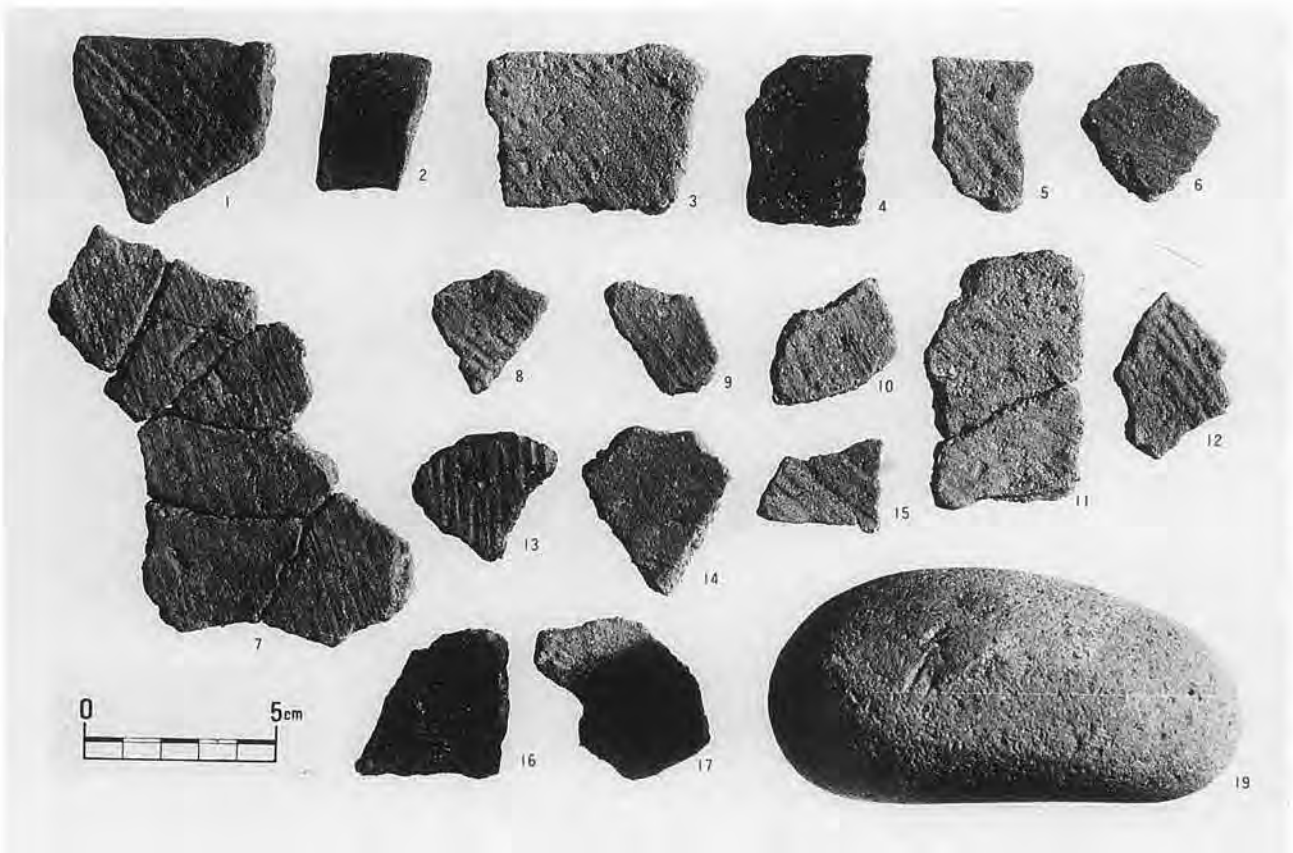
Photo.7

第1号土坑（西より）



第1号竖穴状遺構出土遺物（外面）

Photo.8



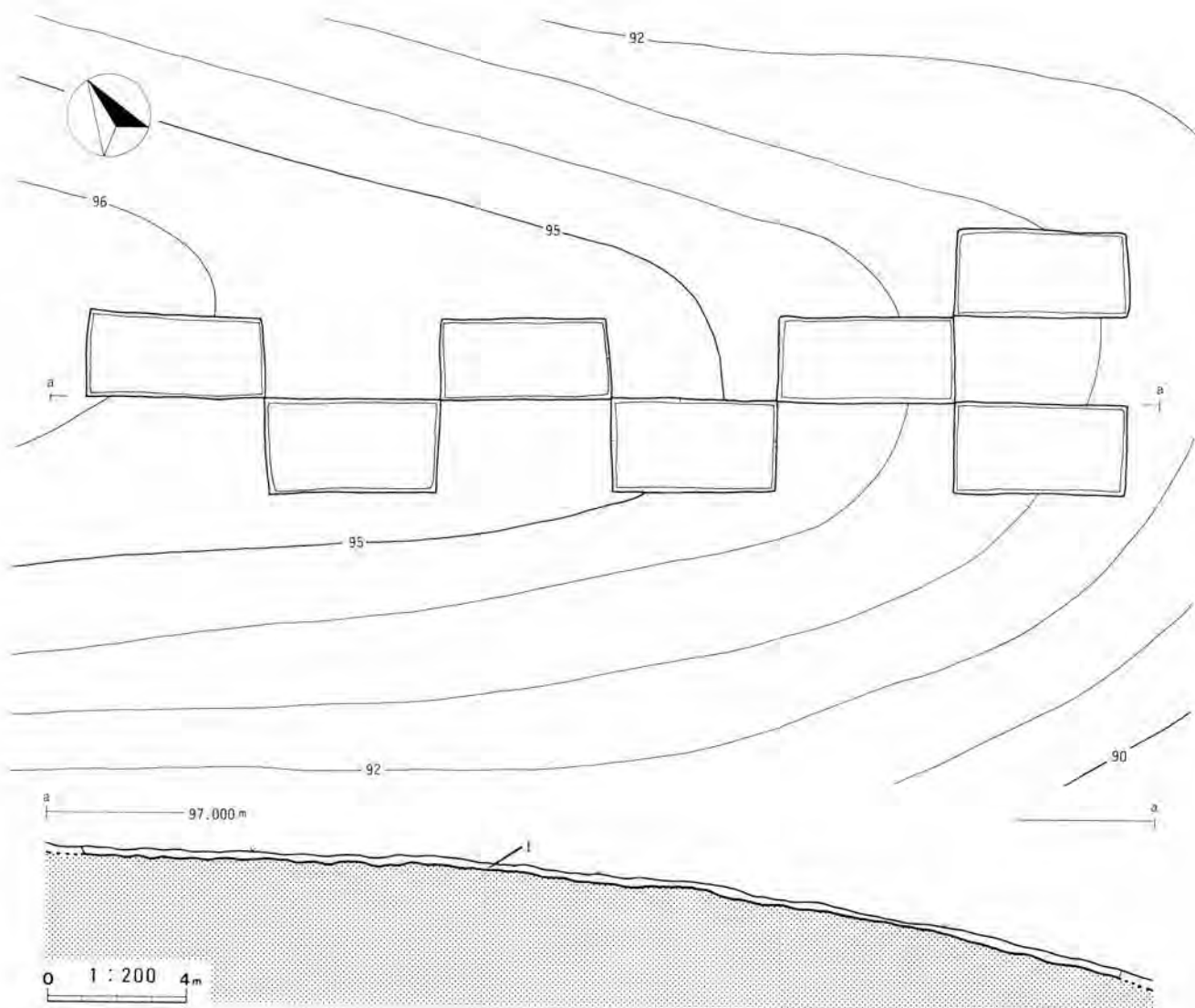
第1号竖穴状遺構出土遺物（内面）

Photo.9

2. 第2調査地区（加村遺跡第1次調査）

調査は、東に延びる標高95m前後の尾根部分を対象とし、2×5mの調査区を設け、尾根上の30mの範囲にわたって調査を実施した。遺構確認作業は暗褐色土の表土を除去した面で行った。

調査区は加村遺跡の北東部に位置し、地形的にも尾根上の緩斜面や南向きの斜面があり、遺構などの存在が予想されたが、遺構、遺物は検出されなかった。



層名	基本土	混入土
表土 I	10YR3/3暗褐色シルト質埴土	10YR4/6褐色シルト質埴土3%塊状混入

第9図 第2調査地区（加村遺跡第1次調査）全体図、土層断面図



調査状況（南東より）

Photo. 10



調査状況（北西より）

Photo. 11

3. 第3調査地区（加村遺跡第2次調査）

調査区は、第1次調査区の南に位置する2つの小尾根である。いずれも標高80m～90mの南東に傾斜する尾根である。

北尾根の調査区をNR区、南尾根をSR区とした。

<NR区>(第11図)

尾根の中央部分は、現道（市道浦の沢線）の開削時に削られており、調査は西側の尾根部分と現道崖面の周辺を中心に行った。

堆積土は、2層に大別される。第I層は暗褐色壤土、第II層は明黄褐色壤土のII a層、黄褐色壤土のII b層、にふい黄褐色砂壤土のII c層、暗褐色砂壤土のII d層に細分される。

現道の崖面でフラスコ状土坑2基を検出したが、西側の尾根部分では遺構は見られず、遺物も円礫等が出土するに止まった。

第1号フラスコ状土坑（第12図）

道路崖面で検出されたフラスコ状土坑である。現道の開削時に大半が削られており、土坑北西側の一部が残されているだけであった。

規模は底部の径が約1.2m、深さは上部が破壊されているため不明であるが、1.5mほどと推定される。形状は、壁面の立ち上がりが内傾しており、フラスコ状を呈する。

埋土は3層に大別される。A層は、明黄褐色土を主体とするA1、A2層に細分され、ともに木炭粒が含まれる。B層が木炭粉や礫を含む褐色シルト質壤土、C層が礫を含む黄褐色砂質埴壤土である。遺物は出土していない。

第2号フラスコ状土坑（第12図）

第1号フラスコ状土坑の南西約1mに位置する。この土坑も現道開削時に南側が半分以上削られている。

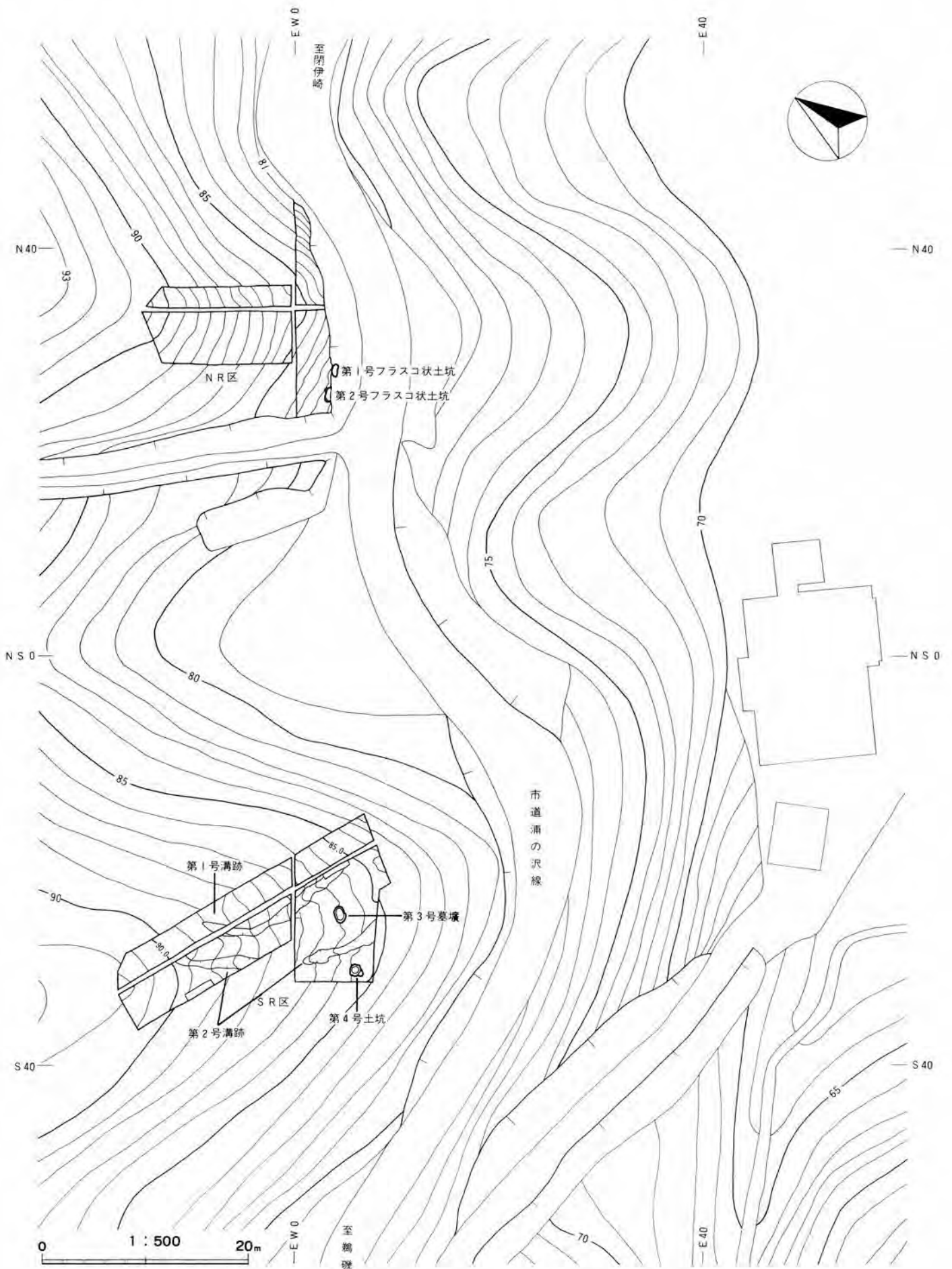
規模は、平面が約1.2mの円形を呈していたものと推定され、深さは検出面から1.0m、底面の径は1.4mである。形状はやはりフラスコ状である。

埋土は3層に大別される。D層は明黄褐色土、E層及びF層は、ともに黄褐色土ないし明黄褐色土が主体となる土層であるが、E層についてはE1～E5層に細分され、このうちE3層が褐色土を主体としている。E5層から土器が1点出土している。

第13図の1がE5層から出土したもので、弧状の沈線で区画されており大木9式とみられる。

遺構外出土遺物（第13図）

3～8は無文の体部片で、9、10は網代痕を持つ底部破片である。11は一側面に磨面を持つ角礫である。12、13は遺跡外から持ち込まれたと思われる小円礫で、SR区でも同様な円礫が出土している。



第10図 第3調査地区（加村遺跡第2次調査）全体図

〈SR区〉(第14図)

調査区は、標高84m～91mの南東方向に傾斜する尾根である。調査区南東部は緩斜面となっており、そこから墓塚、土坑が検出されている。西側の斜面では、尾根と同方向にのびる2条の溝跡が見られた。

堆積土第I層は褐色砂壤土のI a層と褐色壤質砂土のI b層に細分される。

第3号墓塚 (第15図)

調査区南東の緩斜面部分で検出されている。

規模は、平面が1.5m×1.0mの隅丸不整形を呈し、深さは検出面から20cmである。

主軸方向は北東で、等高線と平行する。

墓塚は浅く、埋土は2層に大別された。A層は黒褐色シルト質壤土で、B層はB 1、B 2層に細分され、B 1層が暗褐色壤質砂土、B 2層が黄褐色壤質砂土である。

遺物はA層から出土しており、上から皮状のもの (Photo.28-51)→副葬銭→樹皮の繊維質部分 (Photo.28-52)→表皮部分 (Photo.28-53)の順序で重なったかたちで出土している。この他、歯 (Photo.28-50)、炭化材が出土している。これらのうち、皮状のもの、副葬銭、樹皮の繊維質部分、歯に緑青が付着している。歯はヒトの右上顎犬歯である。

副葬銭は銅銭が49枚で、内訳は永樂通寶が42枚、洪武通寶が1枚、銭文不明が3枚、無文銭が3枚である。永樂通寶は模倣銭とみられる。(表2)

樹皮の繊維質部分と表皮部分であるが、歯や副葬銭の下から出土しており、埋葬の際に敷いたものと推定される。

また埋土には、径約1mmの球状の植物種子と貝殻の小破片が含まれていた。

第4号土坑 (第15図)

墓塚の南西に位置する。

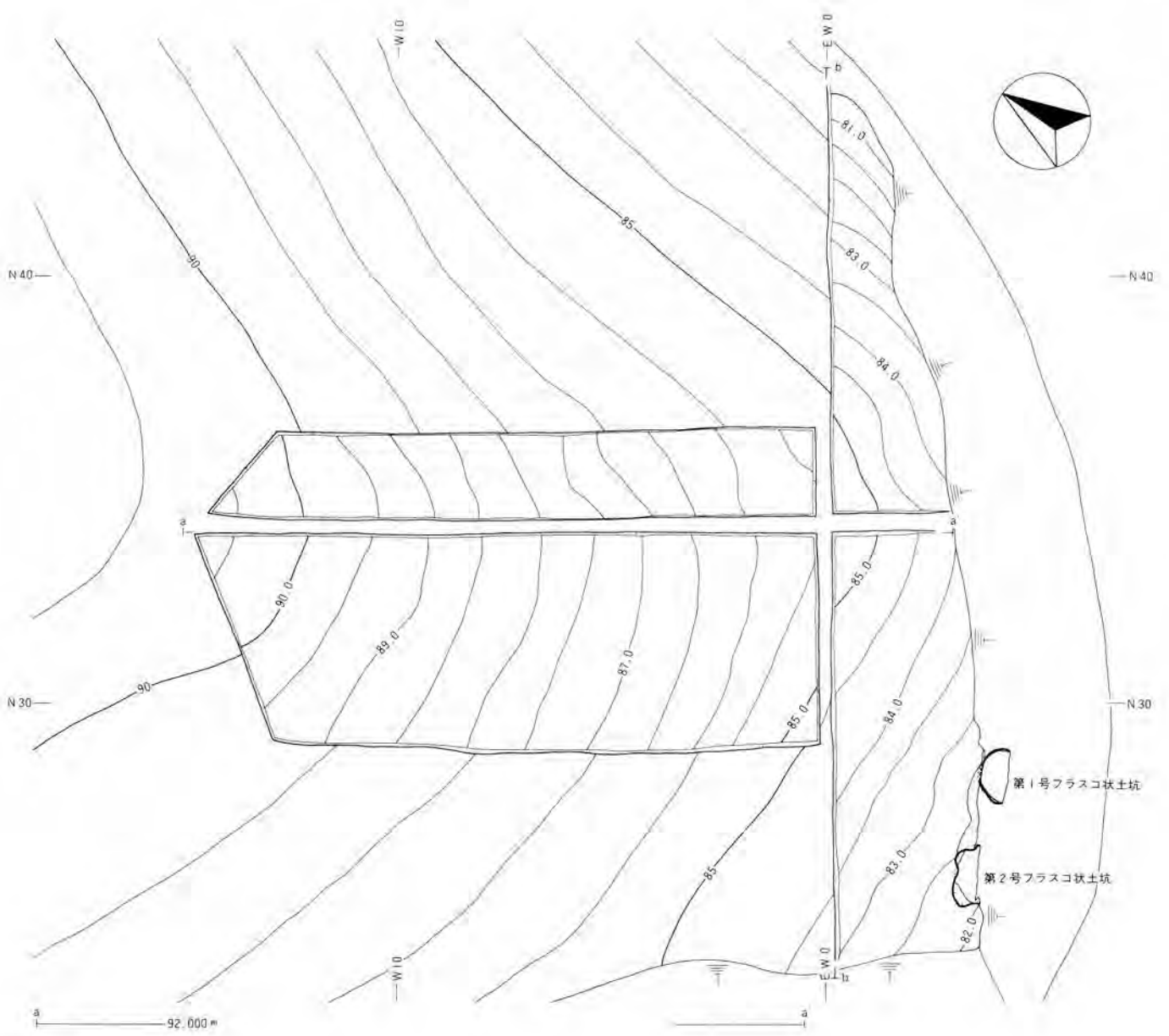
規模は、平面が1.2m×1.0mの楕円形を呈し、深さは検出面から55cmで、南側が半円形に浅く掘り込まれている。

埋土は2層に大別される。C層は礫を多く含む暗褐色壤質砂土と暗褐色シルト質壤土のC 1、C 2層に細分され、D層は明黄褐色壤質砂土である。

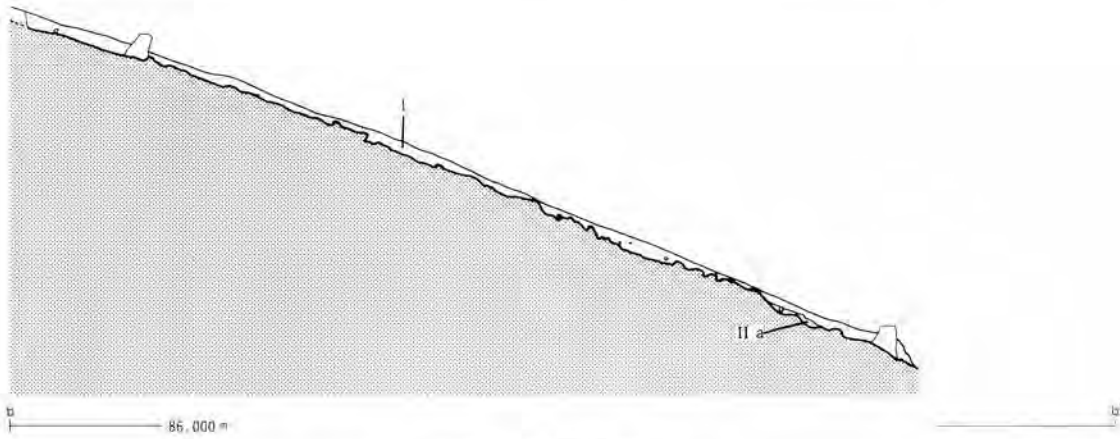
遺物は、C 2層から、小円礫 (第20図-12)が出土している。

NR区土層

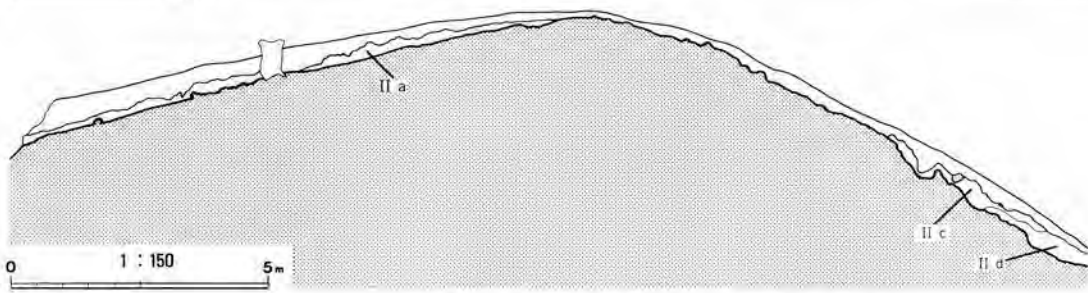
層名	基本土	混入土
表土 I	10YR3/3暗褐色壤土	10YR4/6褐色シルト質壤土10%塊状、10YR5/6黄褐色シルト質壤土2%塊状、10YR6/6明黄褐色砂土2%粉粒状混入 礫を含む
明黄褐色土 II a	10YR6/6明黄褐色壤土	10YR5/8黄褐色壤土20%塊状、10YR3/3暗褐色壤土1%塊状混入 礫を多く含む
黄褐色土 II c	10YR5/4にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/3にぶい黄褐色壤土5%塊状、10YR3/4暗褐色壤質砂土2%塊状混入 礫を含む
暗褐色土 II d	10YR3/3暗褐色砂壤土	10YR4/4褐色壤質砂土5%塊状混入 礫を含む



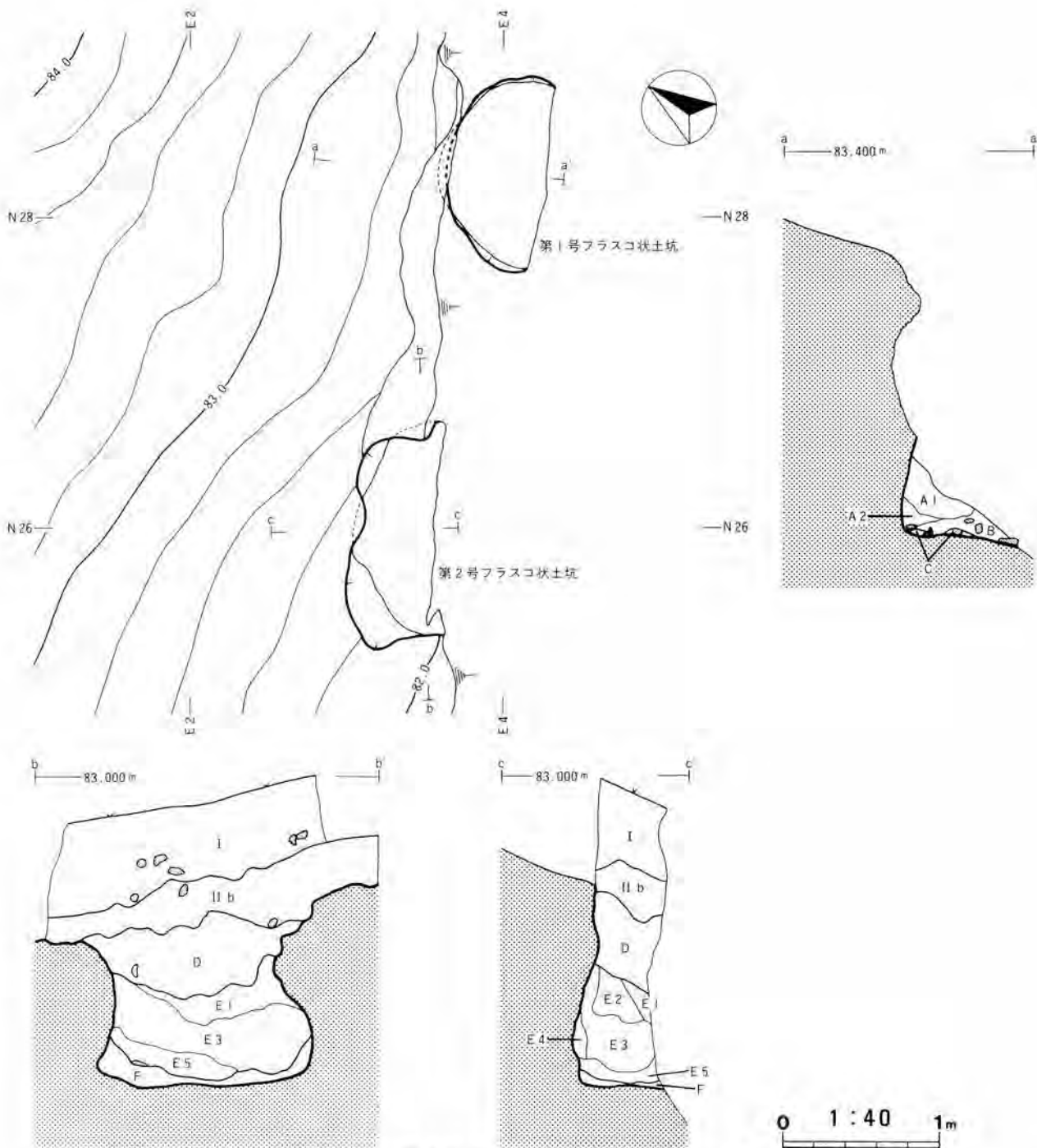
a ————— 92,000 m



0 ————— 85,000 m



第II図 NR区平面図、土層断面図

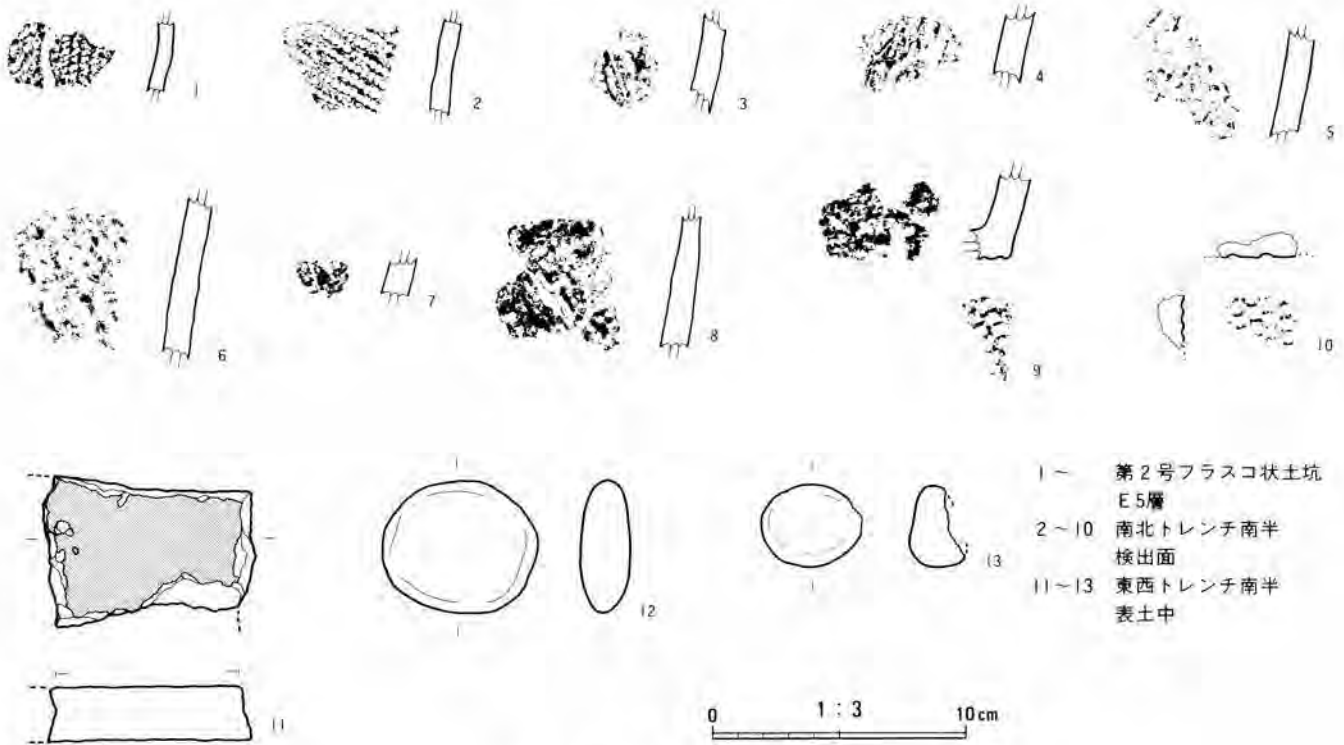


第12図 第1号、第2号フラスコ状土坑平面図、土層断面図

	層名	基本土	混入土
第1号フラスコ状土坑埋土	埋土 A1	10YR6/6明黄褐色壤質砂土	10YR5/8黄褐色砂壤土3%塊状、10YR7/6明黄褐色壤質砂土1%塊状、7.5YR5/6明褐色砂質埴土1%層状・塊状混入 木炭粒を含む
	埋土 A2	10YR6/8明黄褐色壤土	10YR5/8黄褐色壤土10%塊状混入 木炭粒を含む
	埋土 B	10YR4/6褐色シルト質壤土	10YR6/6明黄褐色壤土7%塊状混入 礫、木炭粉を含む
	埋土 C	10YR5/8黄褐色砂質埴壤土	7.5YR5/6明褐色重埴土5%塊状混入 礫を含む
第2号フラスコ状土坑埋土	表土 I	10YR3/3暗褐色壤土	10YR4/6褐色シルト質壤土10%塊状、10YR5/6黄褐色シルト質壤土2%塊状、10YR6/6明黄褐色砂土2%粉粒状混入 礫を含む
	黄褐色土 II b	10YR5/6黄褐色壤土	10YR4/4褐色シルト質壤土7%塊状、10YR4/6褐色シルト質壤土7%塊状、10YR6/6明黄褐色砂壤土3%粒塊状混入 礫、木炭粉を少量含む
	埋土 D	10YR6/8明黄褐色壤土	10YR4/6褐色シルト質壤土20%塊状、10YR5/8黄褐色壤土2%塊状、10YR5/4にぶい黄褐色砂壤土1%塊状混入 礫、木炭粉を少量含む

層名	基本土	混入土
埋土 E1	10YR6/6明黄褐色砂壤土	10YR6/8明黄褐色壤土10%塊状、10YR5/8黄褐色砂壤土1%塊状、10YR7/6明黄褐色砂壤土1%塊状混入 礫、木炭粉を少量含む
埋土 E2	10YR5/8黄褐色砂壤土	10YR6/8明黄褐色壤土50%粒塊状混入 木炭粉を含む
埋土 E3	10YR4/6褐色砂壤土	10YR5/6黄褐色砂壤土3%、10YR6/6明黄褐色壤質砂土1%塊状、10YR7/6明黄褐色砂壤土1%塊状混入 礫、木炭粉を少量含む
埋土 E4	10YR5/8黄褐色埴壤土	10YR6/6明黄褐色砂質埴壤土15%塊状混入
埋土 E5	10YR5/8黄褐色壤質砂土	10YR5/6黄褐色壤質砂土5%塊状、10YR6/6明黄褐色壤質砂土1%塊状混入 縄文土器、木炭粉を少量及び礫を含む
埋土 F	10YR6/8明黄褐色砂壤土	10YR5/8黄褐色壤質砂土5%塊状、10YR6/8明黄褐色砂質埴土2%層状・塊状、7.5YR5/6明褐色砂質埴土1%層状・塊状混入 礫、木炭粉を含む

第2号フラスコ状土坑埋土



1 - 第2号フラスコ状土坑 E5層
 2 - 10 南北トレンチ南半 検出面
 11 - 13 東西トレンチ南半 表土中

第13図 NR区出土遺物

番号	出土地区	層位	長径(mm)	短径(mm)	厚(mm)	重量(g)	形状
12	東西トレンチ南半	表土	62	52	20	96.7	扁平型
13	東西トレンチ南半	表土	40	33	22	(30.0)	滴型 一部欠損

表1 NR区出土円礫計測表

第1号、第2号溝跡（第14図）

尾根の中央部に二条見られ、やや湾曲しながら尾根筋に平行して並ぶ。第1号、第2号溝跡の規模は、最大巾がそれぞれ1.3m、1.5m、検出面からの深さはそれぞれ30cm、15cmである。

第1号溝跡の埋土E層は、暗褐色砂壤土のE1層、にぶい黄褐色シルト質壤土のE2層及び暗灰黄色埴壤土のE3層に細分される。第2号溝跡では、底面付近で暗褐色砂壤土の混入が見られる。

遺物は、第1号溝跡検出面からは円礫（第20図-17）が出土している。

これらの溝跡の性格、時期については不明である。

遺構外出土遺物（第20図）

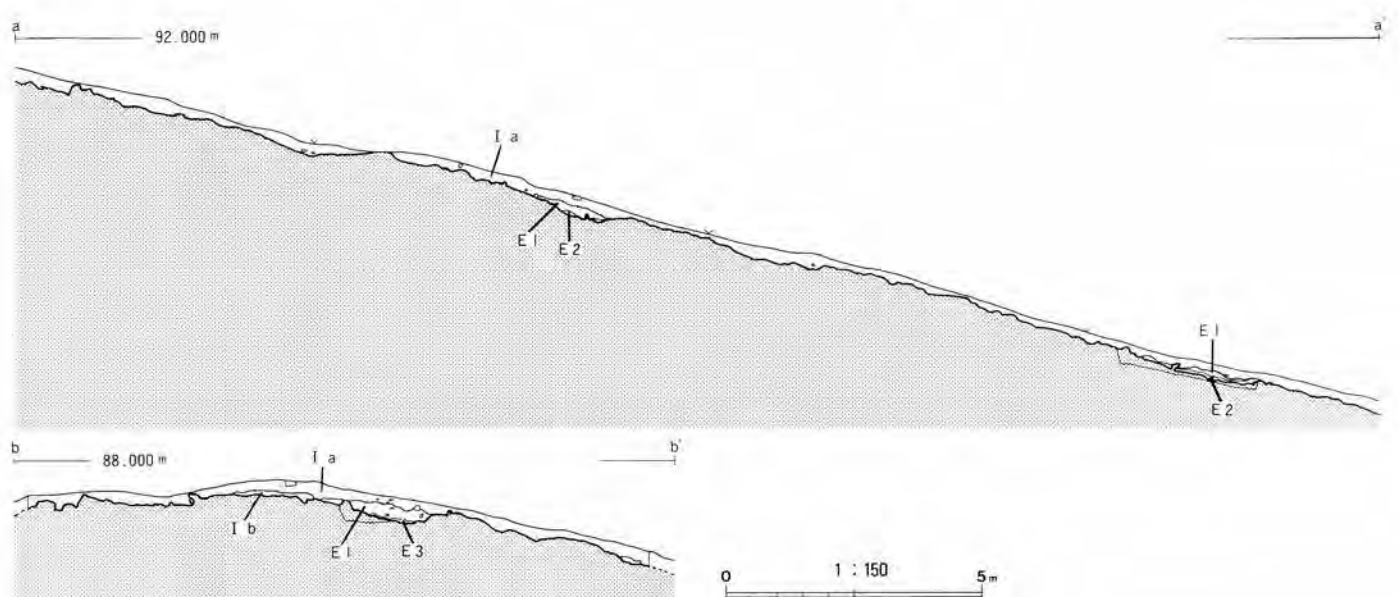
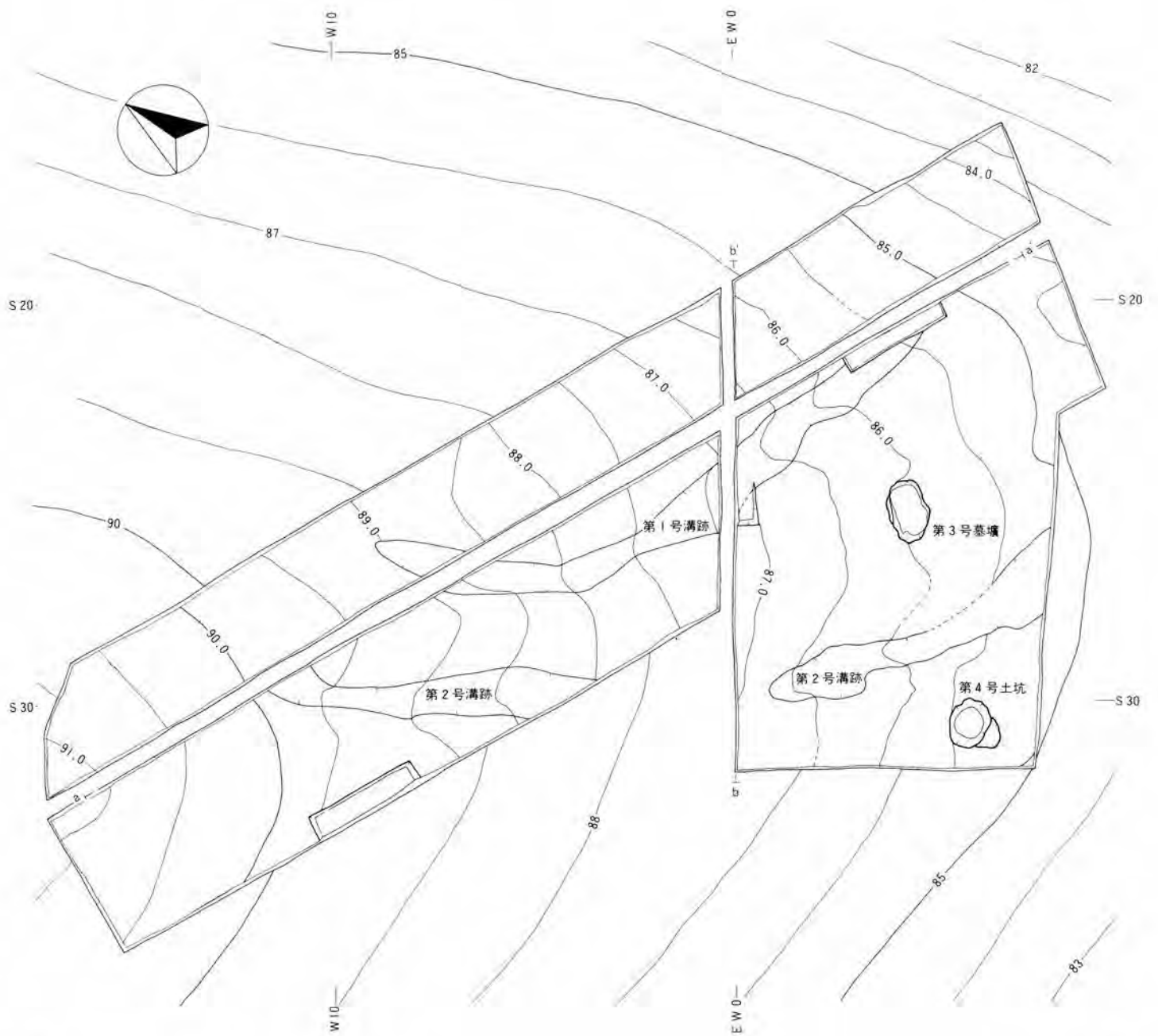
1～9は遺構検出面から出土したものである。1～8が体部、9が底部破片であるが、時代を特定できるものはなかった。

10は二側面に磨面を持つ角礫で、11は両側面に磨面を持つ円礫で、一端に打痕が見られる。13～16は、NR区で出土した小円礫（第13図）と同様のものである。石質や形状の特徴から遺跡外の海浜あるいは河川から持ち込まれたものとみられる。これらの資料では重量に偏差が認められ、（表1、3）100g前後のものと50g前後のものに分けることができ、何らかの使用の意図をもって選択的に持ち込まれたものと考えられる。

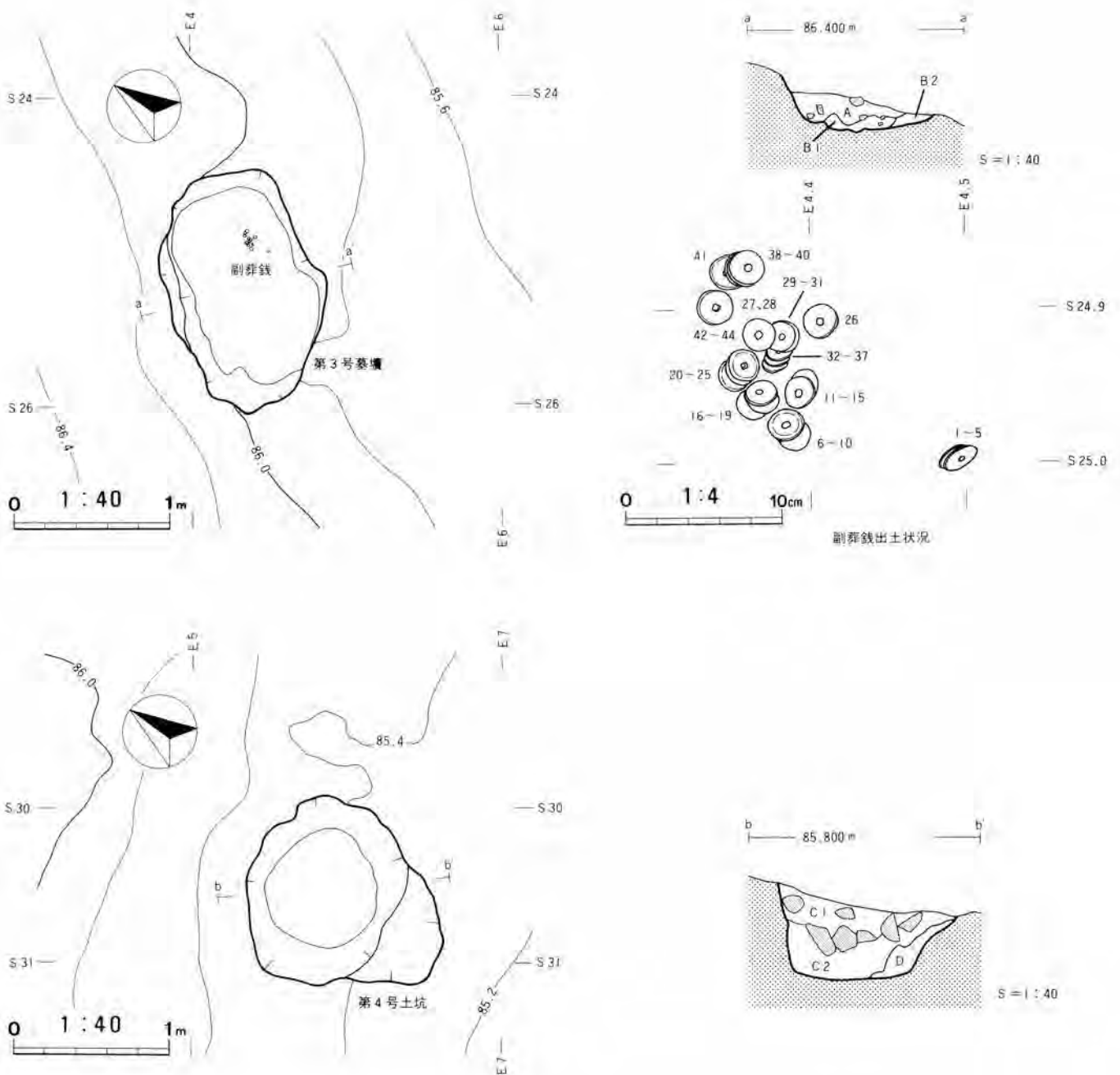
SR区土層

第1号溝跡埋土

層名	基本土	混入土
表土 Ia	10YR4/6褐色砂壤土	10YR2/3黒褐色シルト質壤土3～7%塊状、10YR3/4暗褐色砂壤土10%塊状混入 礫含む
褐色土 Ib	10YR4/4褐色壤質砂土	10YR3/4暗褐色砂壤土15%塊状、10YR2/3黒褐色シルト質壤土2%塊状混入
埋土 E1	10YR3/4暗褐色砂壤土	10YR2/3黒褐色シルト質壤土15%塊状混入 礫を含む
埋土 E2	10YR4/3にぶい黄褐色シルト質壤土	10YR2/3黒褐色シルト質壤土5%粒塊状、10YR6/8明黄褐色壤質砂土2%粒塊状、7.5YR5/6明褐色埴壤土3%粒塊状混入
埋土 E3	2.5Y4/2暗灰黄色埴壤土	10YR3/4暗褐色砂壤土2%塊状混入

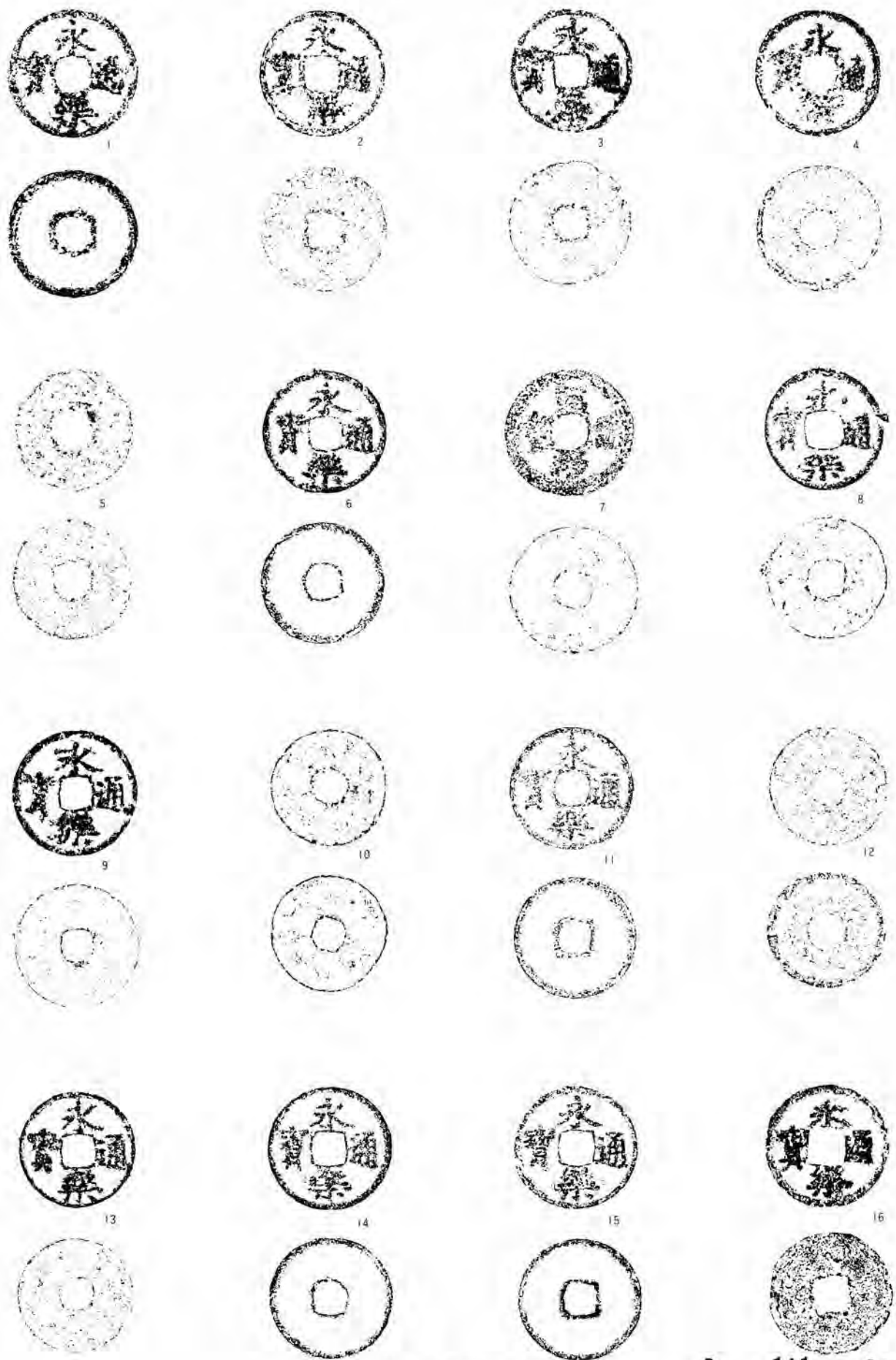


第14图 SR区平面图、土层断面图

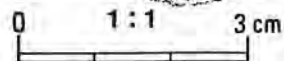


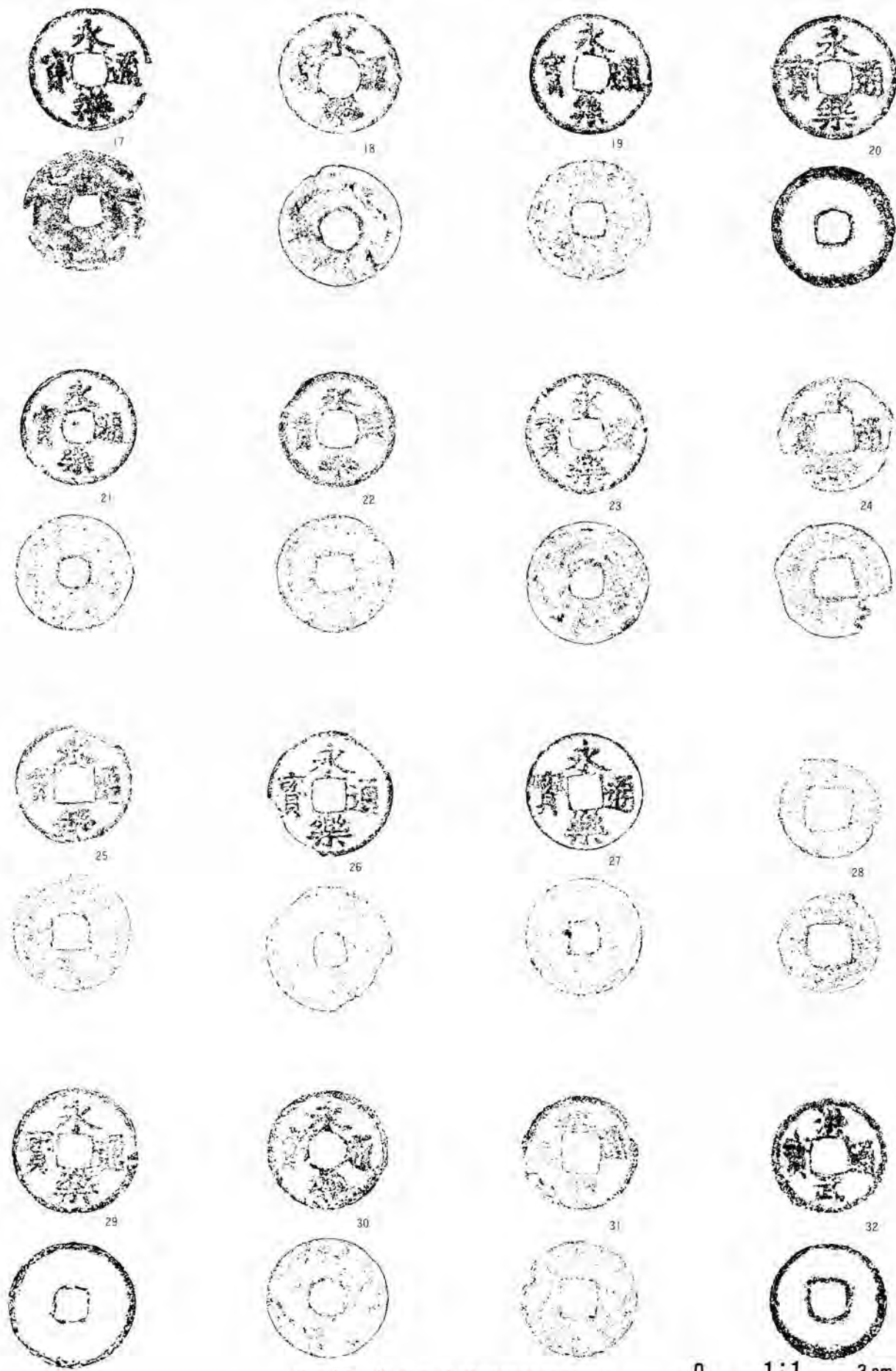
第15図 第3号墓壙、第4号土坑平面図、土層断面図

層名	基本土	混入土	
埋土 A	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	10YR6/6 明黄褐色壤質砂土10%粒塊状、10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	第3号墓壙埋土
埋土 B1	10YR3/3 暗褐色壤質砂土	10YR6/6 明黄褐色壤質砂土40%粒状、10YR4/4 褐色砂壤土1%塊状混入 礫含む	
埋土 B2	10YR5/6 黄褐色壤質砂土	10YR4/4 褐色壤質砂土30%粒塊状混入 木炭及び粒状の礫を多く含む	
埋土 C1	10YR3/4 暗褐色壤質砂土	10YR4/4 褐色壤土40%塊状混入 礫を多く含む	第4号土坑埋土
埋土 C2	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土20%塊状、10YR2/3 黒褐色壤土10%塊状混入 礫を含む	
埋土 D	10YR7/6 明黄褐色壤質砂土	10YR3/4 暗褐色壤質砂土20%塊状、10YR4/3 におい黄褐色壤土10%塊状、10YR6/8 明黄褐色壤土5%塊状、10YR5/8 黄褐色シルト質壤土3%塊状混入	



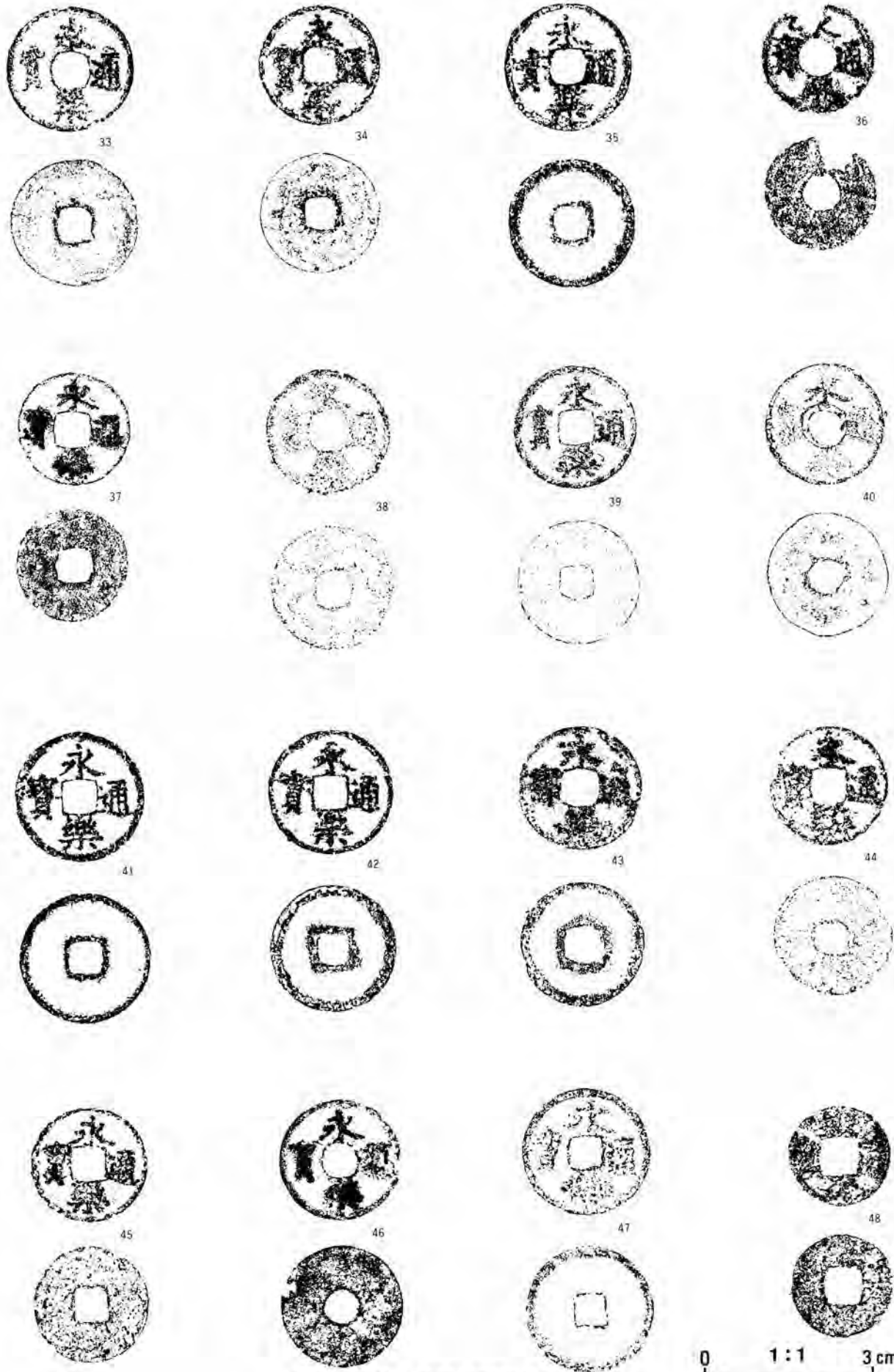
第16图 第3号墓壙副葬钱拓影一





第17图 第3号墓壙副葬钱拓影一2

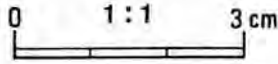




第18图 第3号墓壙副葬钱拓影-3



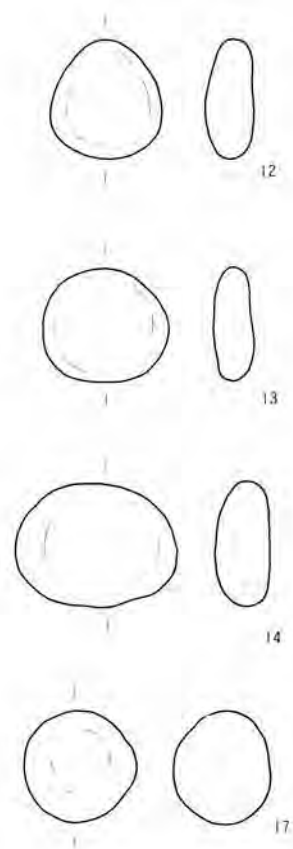
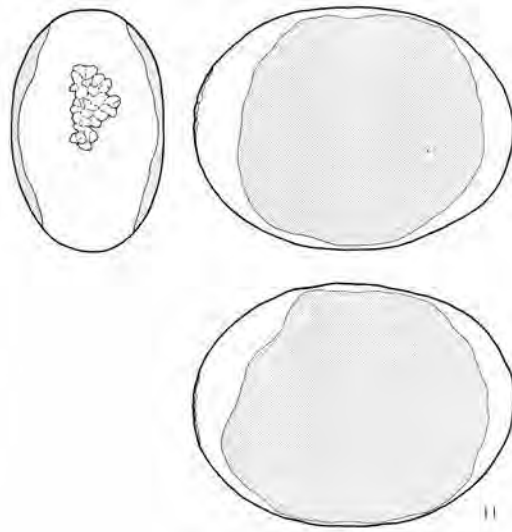
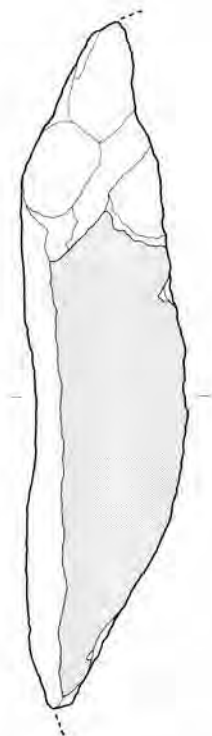
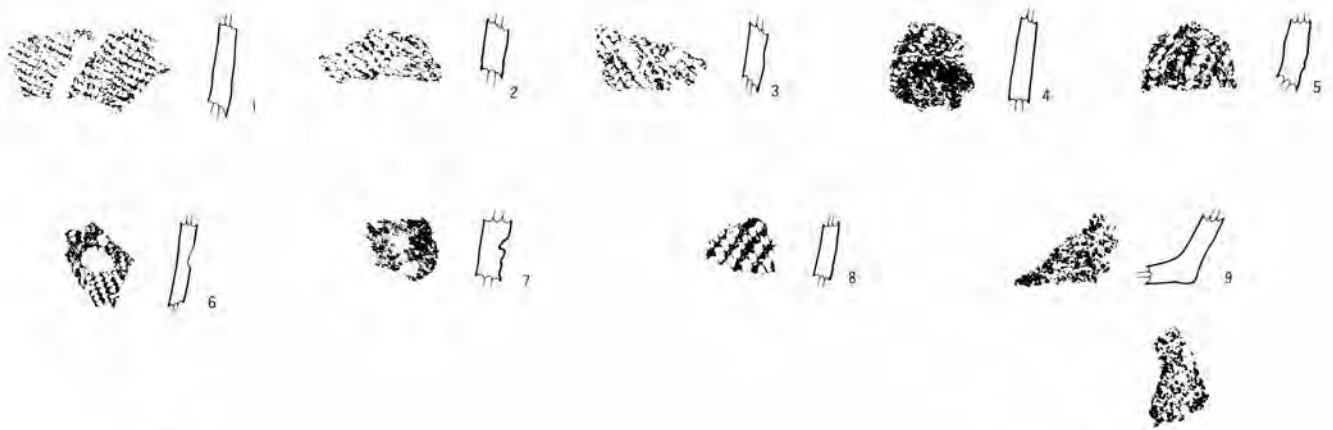
49



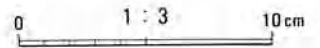
第19圖 第3号墓壙副葬錢拓影-4

資料 番 号	出土 層位	錢 文		外 徑 (mm)	穿 孔 (mm)	外 輪 厚 (mm)	外 輪 幅 (mm)	重 量 (g)
		面	背					
MG01-01	A層	永樂通寶	無背	23.6 ~ 23.7	5.7 × 6.0	0.7	1.5	1.6
MG01-02	A層	永樂通寶	無背	23.1 ~ 23.2	6.6 × 6.9	1.1 ~ 1.2	1.1 ~ 1.5	2.2
MG01-03	A層	永樂通寶	無背	22.3 ~ 22.9	5.3 × 5.8	0.6 ~ 0.7	1.0 ~ 1.4	1.5
MG01-04	A層	永樂通寶	無背	22.9 ~ 23.1	6.2 × 6.5	0.8 ~ 1.0	1.1 ~ 1.6	1.6
MG01-05	A層	不 明	無背	21.5 ~ 21.9	6.0 × 6.2	0.6 ~ 0.7	—	1.6
MG01-06	A層	永樂通寶	無背	22.5 ~ 22.6	5.5 × 5.9	1.0	1.3 ~ 1.6	2.0
MG01-07	A層	永樂通寶	無背	23.6 ~ 23.8	6.2 × 6.4	0.9 ~ 1.0	2.9 ~ 3.0	2.7
MG01-08	A層	永樂通寶	無背	21.9 ~ 22.5	6.4 × 6.8	0.5 ~ 0.6	0.9 ~ 1.4	1.2
MG01-09	A層	永樂通寶	無背	22.9 ~ 23.0	5.6 × 5.7	0.5 ~ 0.6	1.5	1.2
MG01-10	A層	不 明	無背	20.9 ~ 21.3	6.0 × 6.0	0.6 ~ 0.7	—	1.2
MG01-11	A層	永樂通寶	無背	22.6 ~ 22.7	5.6 × 5.6	0.7 ~ 0.8	1.1 ~ 1.2	2.3
MG01-12	A層	不 明	無背	21.6 ~ 21.7	5.2 × 5.4	0.6 ~ 0.7	—	1.2
MG01-13	A層	永樂通寶	無背	21.1 ~ 21.3	5.8 × 6.0	0.5 ~ 0.7	0.9~1.0	1.4
MG01-14	A層	永樂通寶	無背	22.6	5.8 × 6.0	0.6 ~ 0.7	1.0 ~ 1.6	1.3
MG01-15	A層	永樂通寶	無背	22.6 ~ 22.8	5.9 × 6.2	0.7	0.9 ~ 1.0	1.6
MG01-16	A層	永樂通寶	無背	22.4 ~ 22.7	6.5 × 6.6	0.6 ~ 0.8	1.5 ~ 1.7	1.7
MG01-17	A層	永樂通寶	無背	22.4 ~ 22.5	5.9 × 6.0	0.4 ~ 0.5	1.0 ~ 1.1	1.0
MG01-18	A層	永樂通寶	無背	22.0 ~ 22.5	7.0 × 7.1	0.5 ~ 0.7	1.0	1.4
MG01-19	A層	永樂通寶	無背	22.1 ~ 22.6	6.0 × 6.1	0.6 ~ 0.8	1.1	1.5
MG01-20	A層	永樂通寶	無背	22.6 ~ 22.7	5.6 × 6.0	0.8 ~ 0.9	1.1 ~ 1.5	1.9
MG01-21	A層	永樂通寶	無背	21.2	5.5 × 5.6	0.5 ~ 0.7	0.8 ~ 1.5	1.1
MG01-22	A層	永樂通寶	無背	20.8 ~ 21.5	6.7 × 7.1	0.5 ~ 0.6	1.5 ~ 1.6	1.0
MG01-23	A層	永樂通寶	無背	22.2	6.5 × 6.8	0.6 ~ 0.7	0.8 ~ 1.1	1.3
MG01-24	A層	永樂通寶	無背	20.4 ~ 20.9	7.0 × 7.1	0.5 ~ 0.6	1.2	0.8
MG01-25	A層	永樂通寶	無背	21.2 ~ 22.6	6.7 × 6.9	0.6	1.1 ~ 1.2	1.2
MG01-26	A層	永樂通寶	無背	22.8 ~ 22.9	5.6 × 5.7	0.6 ~ 0.7	0.8 ~ 1.1	1.1
MG01-27	A層	永樂通寶	無背	21.4 ~ 21.6	5.8 × 5.8	0.6	0.4 ~ 0.7	1.3
MG01-28	A層	無	無背	18.0 ~ 18.4	7.4 × 7.9	0.5 ~ 0.6	—	0.7
MG01-29	A層	永樂通寶	無背	23.2	5.8 × 5.9	0.9 ~ 1.0	1.2 ~ 1.4	2.2
MG01-30	A層	永樂通寶	無背	21.8 ~ 22.1	6.4 × 6.4	0.6	1.3 ~ 1.5	1.3
MG01-31	A層	永樂通寶	無背	21.0 ~ 21.3	7.1 × 7.4	0.6 ~ 0.7	0.7 ~ 1.4	1.2
MG01-32	A層	洪武通寶	無背	21.2	6.0 × 6.1	1.0	1.5 ~ 1.7	2.1
MG01-33	A層	永樂通寶	無背	22.8 ~ 23.1	6.0 × 6.3	0.6 ~ 0.7	1.5 ~ 1.7	1.8
MG01-34	A層	永樂通寶	無背	21.7 ~ 21.8	5.4 × 5.8	0.6 ~ 0.7	1.1	1.4
MG01-35	A層	永樂通寶	無背	23.2 ~ 23.3	6.3 × 6.5	0.6 ~ 0.7	1.3 ~ 1.4	1.9
MG01-36	A層	永樂通寶	無背	20.5 ~ 20.8	6.3 × 6.6	0.6 ~ 0.8	1.5	1.1
MG01-37	A層	永樂通寶	無背	20.5 ~ 20.7	6.2 × 6.6	0.6 ~ 0.7	0.4 ~ 0.6	1.2
MG01-38	A層	永樂通寶	無背	22.4 ~ 22.7	6.5 × 6.6	0.7	1.0	1.3
MG01-39	A層	永樂通寶	無背	22.2 ~ 22.4	5.8 × 6.0	0.4 ~ 0.7	1.0 ~ 1.8	1.5
MG01-40	A層	永樂通寶	無背	21.9 ~ 22.5	6.2 × 6.4	0.5 ~ 0.8	0.5 ~ 0.8	1.8
MG01-41	A層	永樂通寶	無背	23.7	5.9 × 6.0	0.6 ~ 0.8	1.7	1.7
MG01-42	A層	永樂通寶	無背	22.7 ~ 22.8	5.5 × 5.7	0.6 ~ 0.8	1.0 ~ 1.3	1.9
MG01-43	A層	永樂通寶	無背	22.3 ~ 22.4	6.5 × 6.7	0.4 ~ 0.6	1.4	1.3
MG01-44	A層	永樂通寶	無背	21.5 ~ 21.6	5.3 × 6.0	0.4 ~ 0.6	0.8	1.4
MG01-45	A層	永樂通寶	無背	21.0 ~ 21.2	6.0 × 6.0	0.6 ~ 0.7	0.7 ~ 0.9	1.3
MG01-46	A層	永樂通寶	無背	22.1	6.2 × 6.3	0.3 ~ 0.4	1.4 ~ 1.5	1.2
MG01-47	A層	永樂通寶	無背	23.3 ~ 23.5	5.4 × 5.7	0.7	1.0 ~ 1.3	2.0
MG01-48	A層	無	無背	18.6 ~ 18.9	6.7 × 6.8	0.3	1.3	0.5
MG01-49	A層	無	無背	17.0 ~ 17.4	5.5 × 5.9	0.5	—	0.4

表 2 第3号墓壙副葬錢計測表



1~3、6~8 南北トレンチ南半検出面 10、11 東西トレンチ検出面
4、5、9 南北トレンチ北半検出面



第20図 S R区出土遺物

番号	出土地区	層位	長径(mm)	短径(mm)	厚(mm)	重量(g)	形状
12	第4号土坑	C 2	47	44	18	55.3	扁平型
13	東西トレンチ南半	検出面	49	45	15	54.1	扁平型
14	東西トレンチ南半	検出面	64	49	22	110.1	扁平型
15	南北トレンチ	検出面	51	38	28	59.6	滴型
16	東西トレンチ南半	検出面	41	34	26	51.1	球型
17	第1号溝跡	検出面	45	45	38	100.3	球型

表3 S R区出土円礫計測表



Photo.12

加村遺跡全景（南東より）



Photo.13

加村遺跡全景（東より）



N R 区調査前の状況（南西より）

Photo. 14



遺構検出状況

Photo. 15



Photo.16

第1号、第2号フラスコ状土坑



Photo.17

第1号フラスコ状土坑埋土状況



第2号フラスコ状土坑埋土状況

Photo. 18



第2号フラスコ状土坑埋土状況

Photo. 19



Photo.20

S R 区遺構検出状況（南東より）

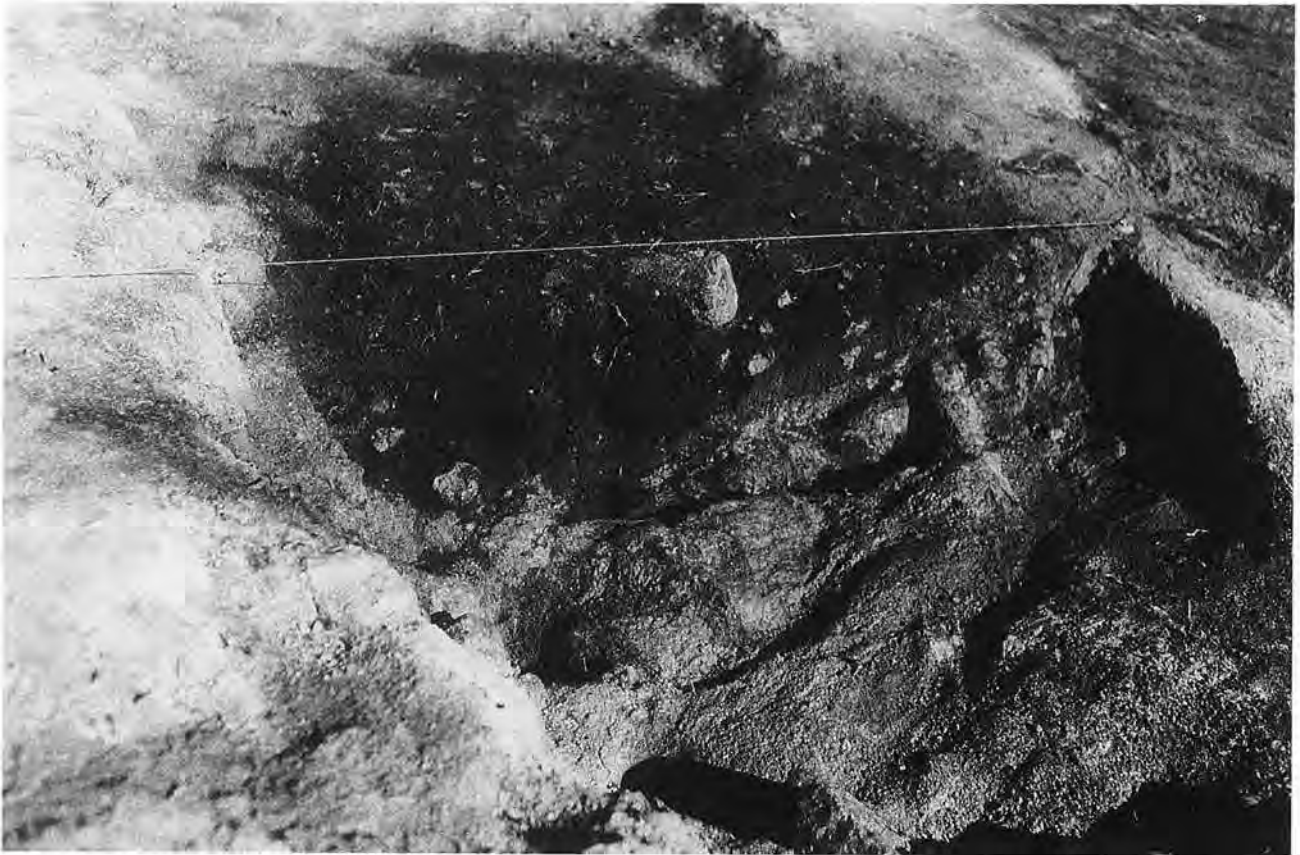
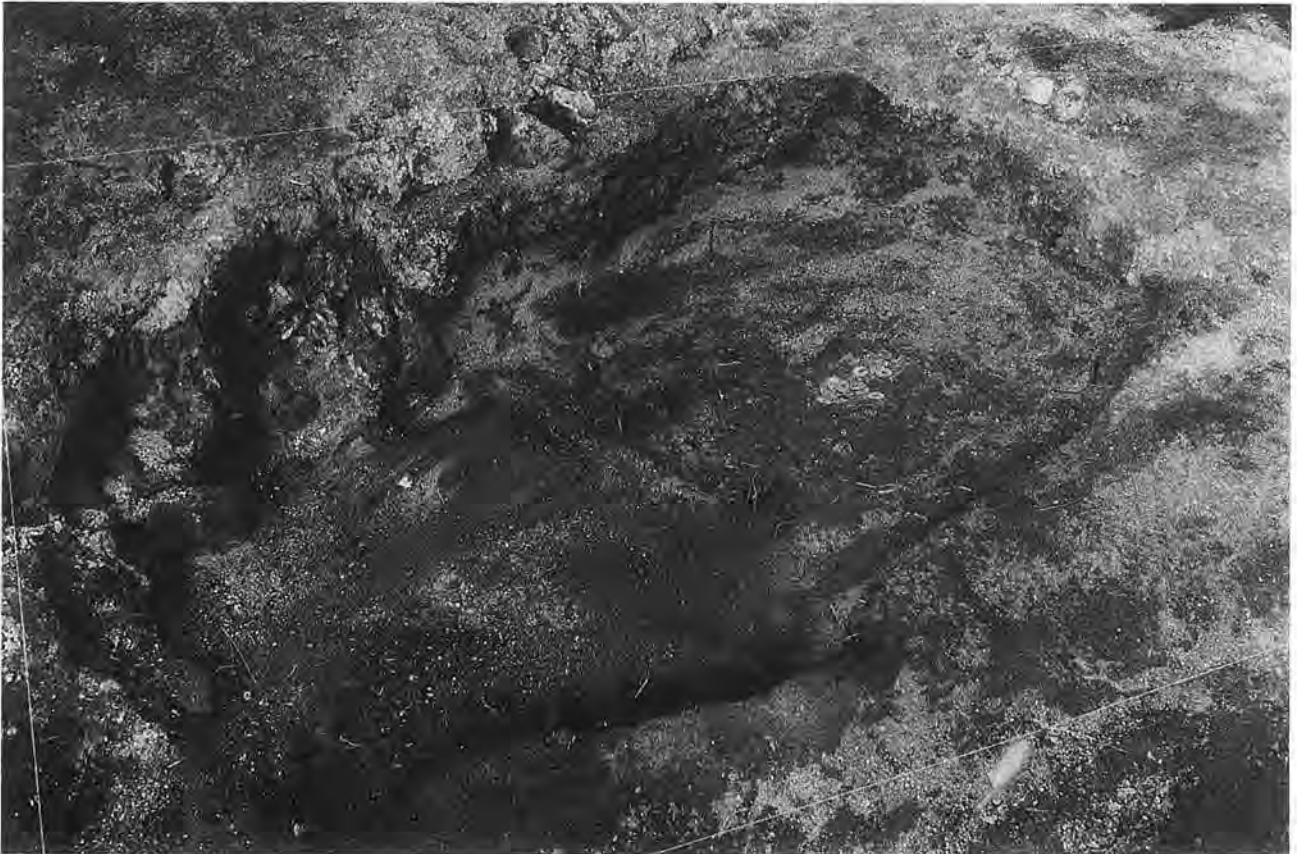


Photo.21

第3号墓壇埋土状況（南西より）



第3号墓壙（南より）

Photo.22



第3号墓壙副葬銭出土状況

Photo.23



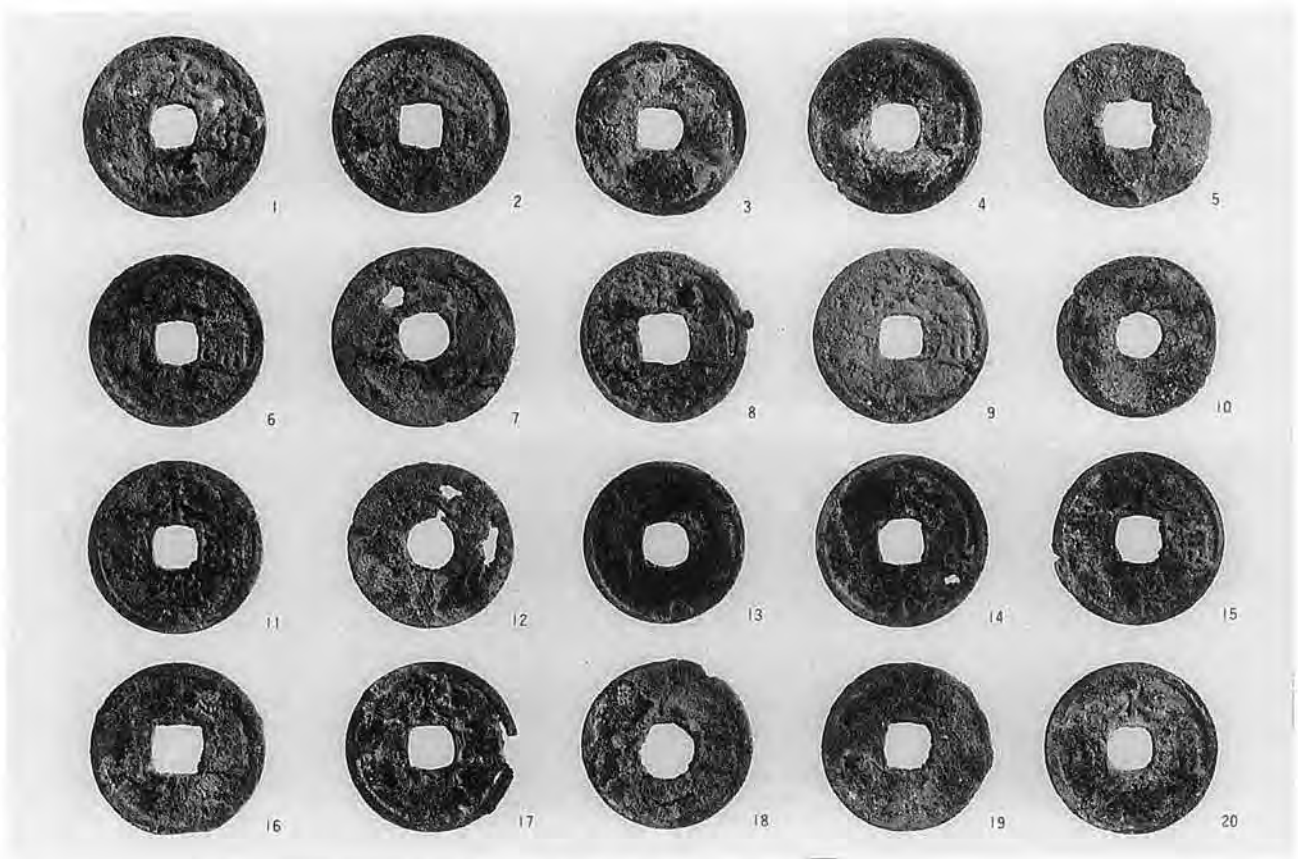
Photo.24

第3号墓墳副葬銭直下遺物



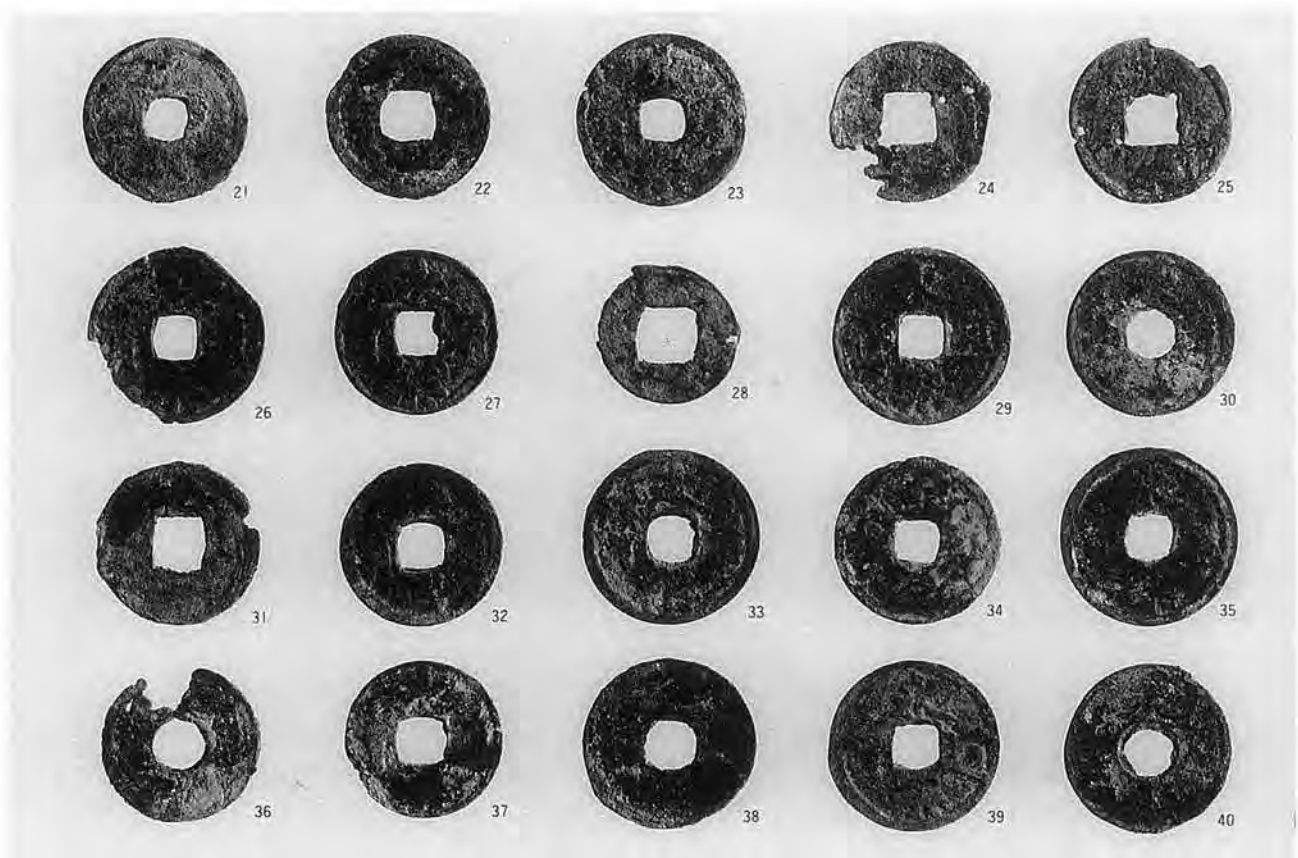
Photo.25

第4号土坑埋土状況



第3号墓壙出土副葬錢

Photo.26



第3号墓壙出土副葬錢

Photo.27

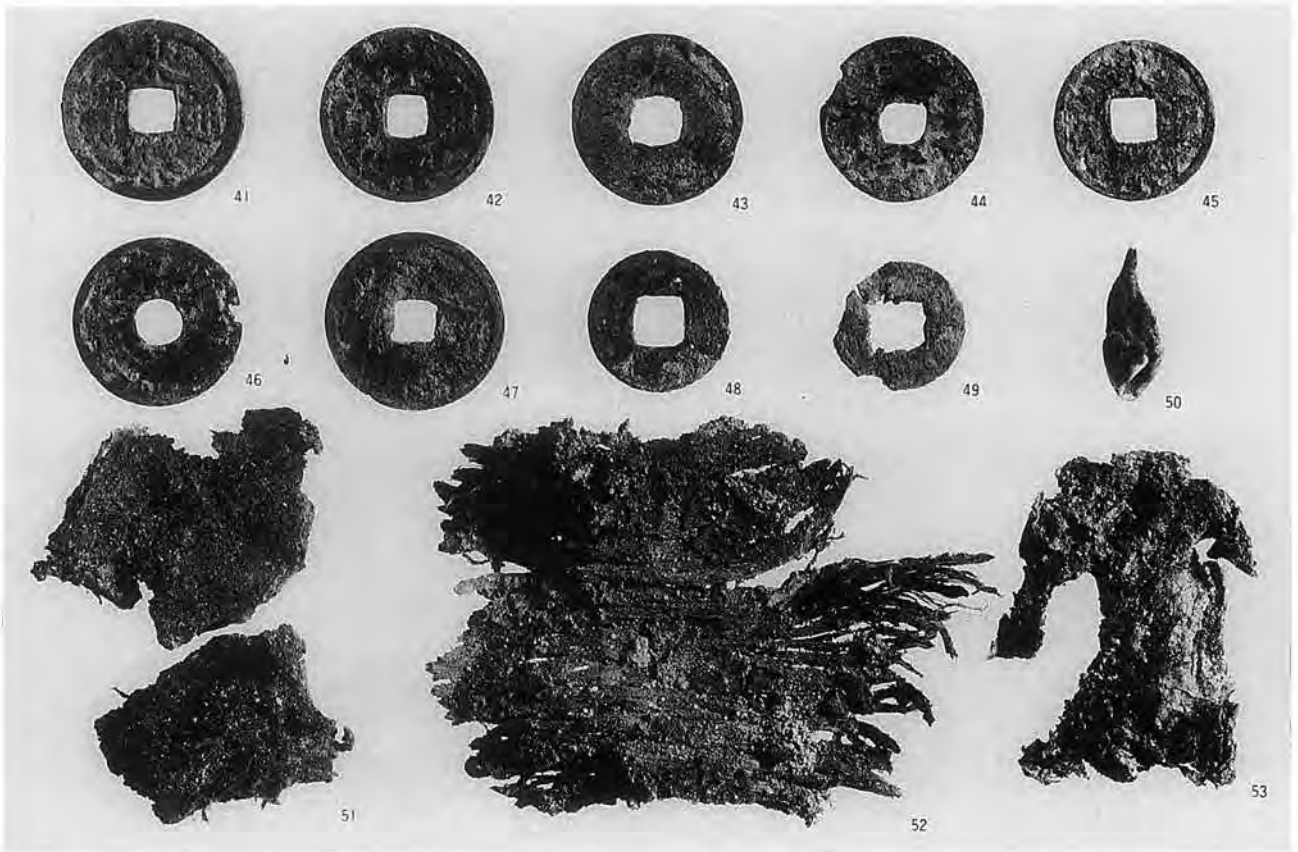


Photo.28

第3号墓壙出土遺物

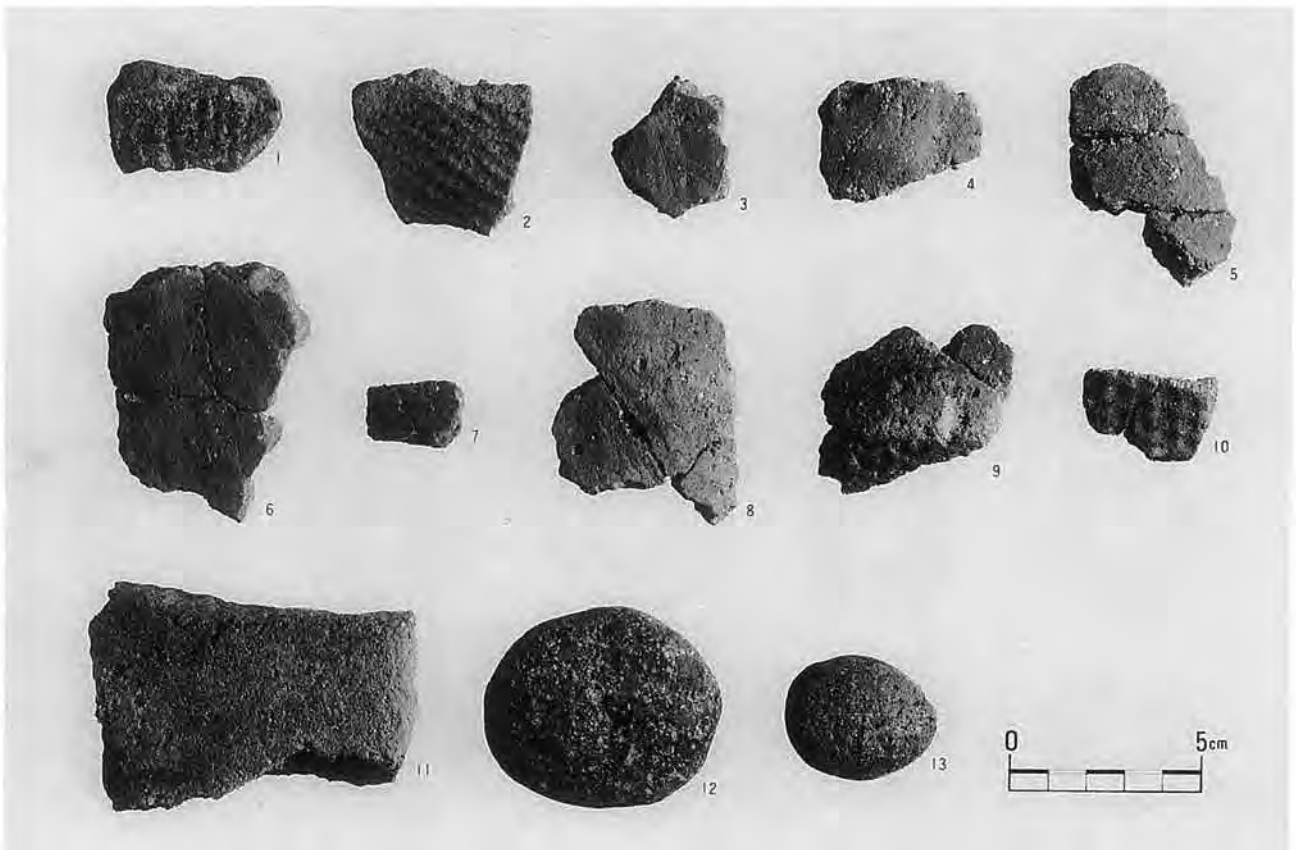
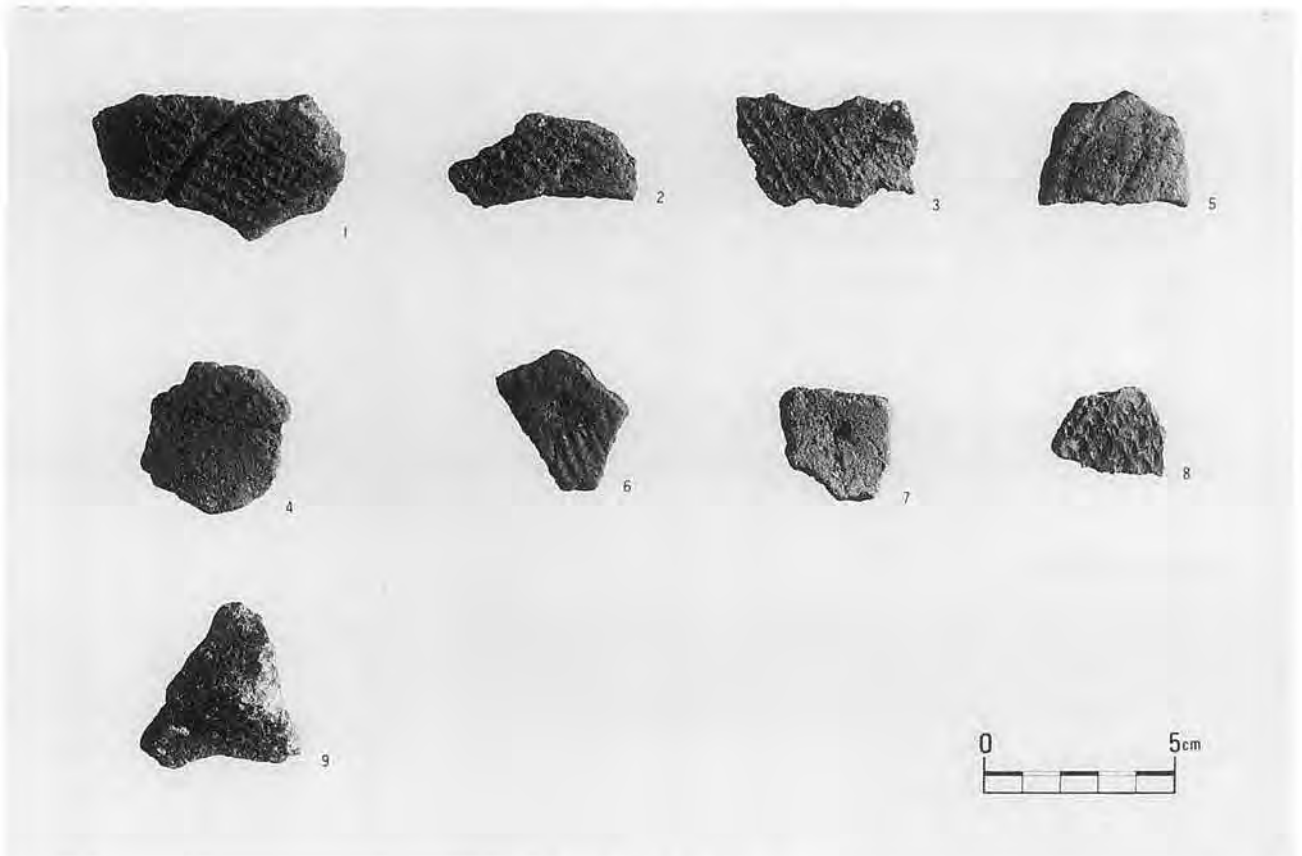


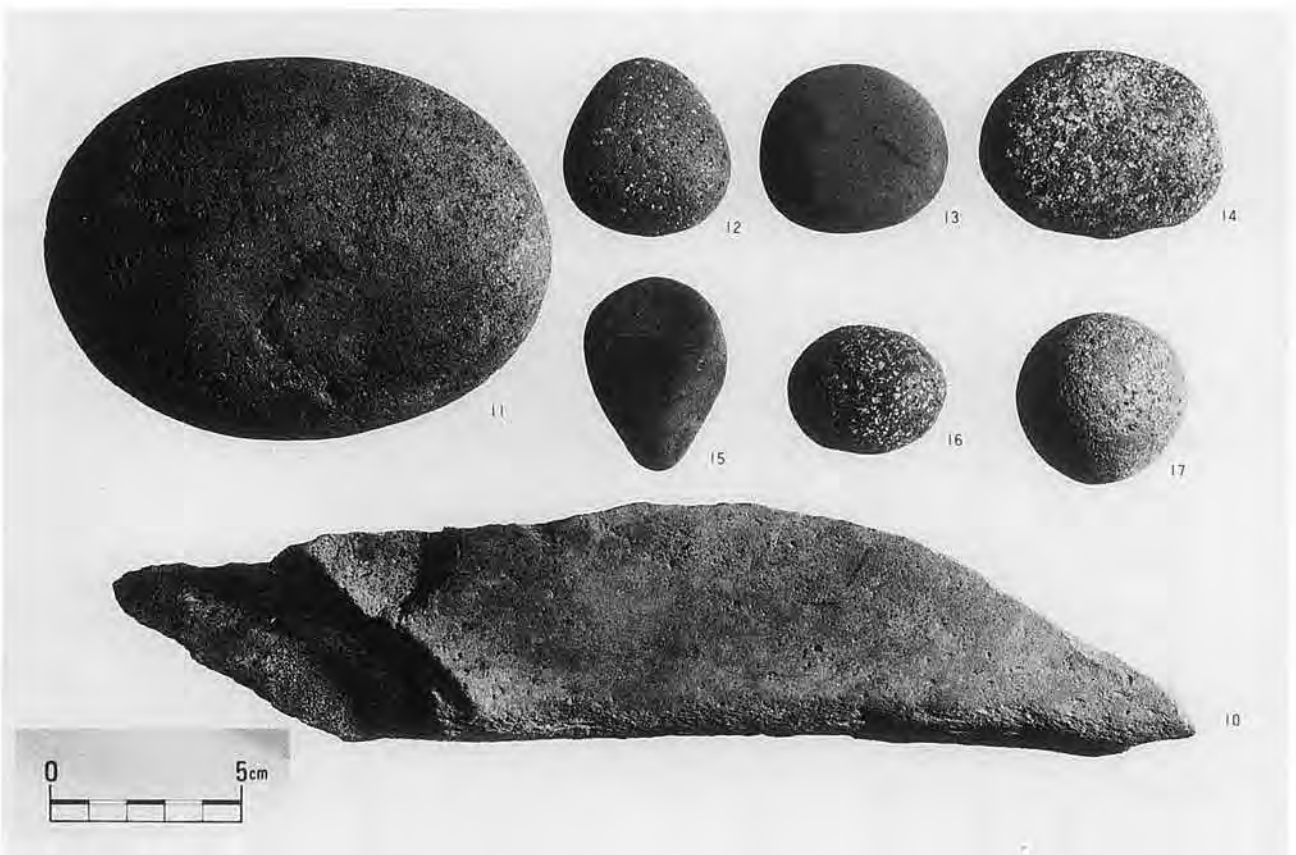
Photo.29

N R 区出土遺物



S R 区出土遺物

Photo.30



S R 区出土遺物

Photo.31

4. 第4調査地区（仲組Ⅲ遺跡）

調査区は、東に延びる小尾根の付け根にあたる東向き
の斜面で、標高は88m前後である。

堆積土は2層に分けられた。I層は褐色シルト質埴壤
土で、II層は黒褐色シルト質埴壤土である。

調査区の北で溝状の落ち込みを検出したが、尾根から
谷へ向かって放射状に延びており、自然の浸食によるも
のと考えられる。

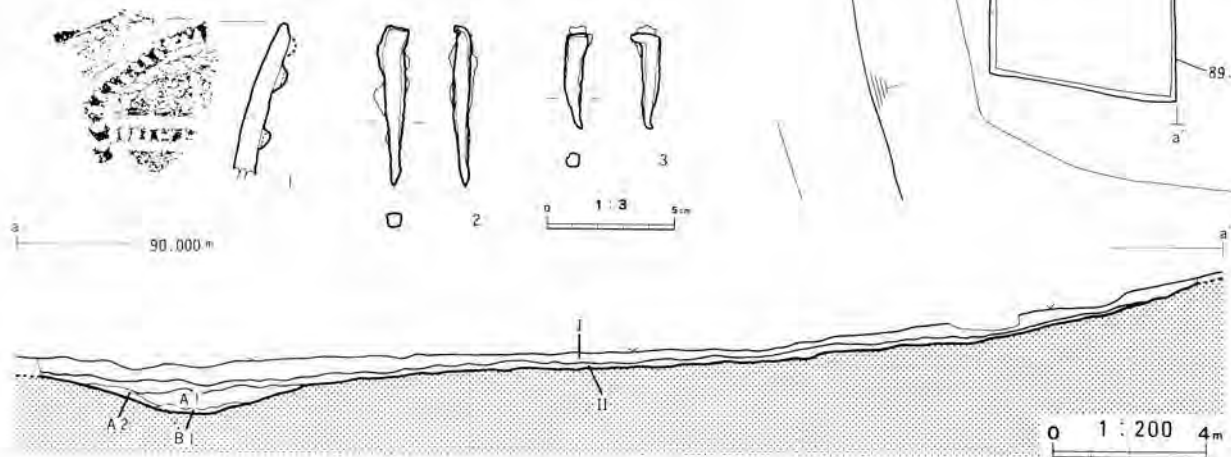
II層から土器が1点、溝の埋土から角釘が2点出土し
ている。

出土遺物（第21図）

1はII層から出土した土器で、口縁部の隆線上に刻み
目が施してある。大木7 b段階の土器である。

2、3は溝から出土した角釘で、長さはそれぞれ64mm、
40mmである。

層名	基本土	混入土
表土	I	10YR4/4褐色シルト質埴壤土
		10YR5/6黄褐色砂質埴壤土10%粒塊、 10YR3/4暗褐色シルト質埴壤土10%粒状混入
黒褐色土	II	10YR2/3黒褐色シルト質埴壤土
埋土	A1	10YR2/3黒褐色シルト質埴壤土
埋土	A2	10YR3/4暗褐色シルト質埴壤土
埋土	B1	10YR2/1黒色シルト質埴壤土
		10YR5/8黄褐色砂質埴壤土10%粒塊状混入



第21図 第4調査地区（仲組Ⅲ遺跡）全体図、土層断面図、出土遺物



調査前の状況（北より）

Photo.32



調査状況（南より）

Photo.33



Photo.34

調査区北部埋土状況（北西より）



Photo.35

出土遺物

5. 第5調査地区（堺ノ神遺跡）

調査区は南半部が尾根の先端部にあたり、北に向かって傾斜していく緩斜面で、標高は90m前後である。

基本土層は3層に大別され、堆積層は北半部では厚く、南半部では薄い。I層は暗褐色砂壤土、II層は黒褐色砂壤土、III層は褐色砂壤土である。北半部の中央で土坑と溝跡を検出し、土器も北半部に集中して出土している。

第1号土坑はII層から掘り込まれている。

遺物は出土していない。

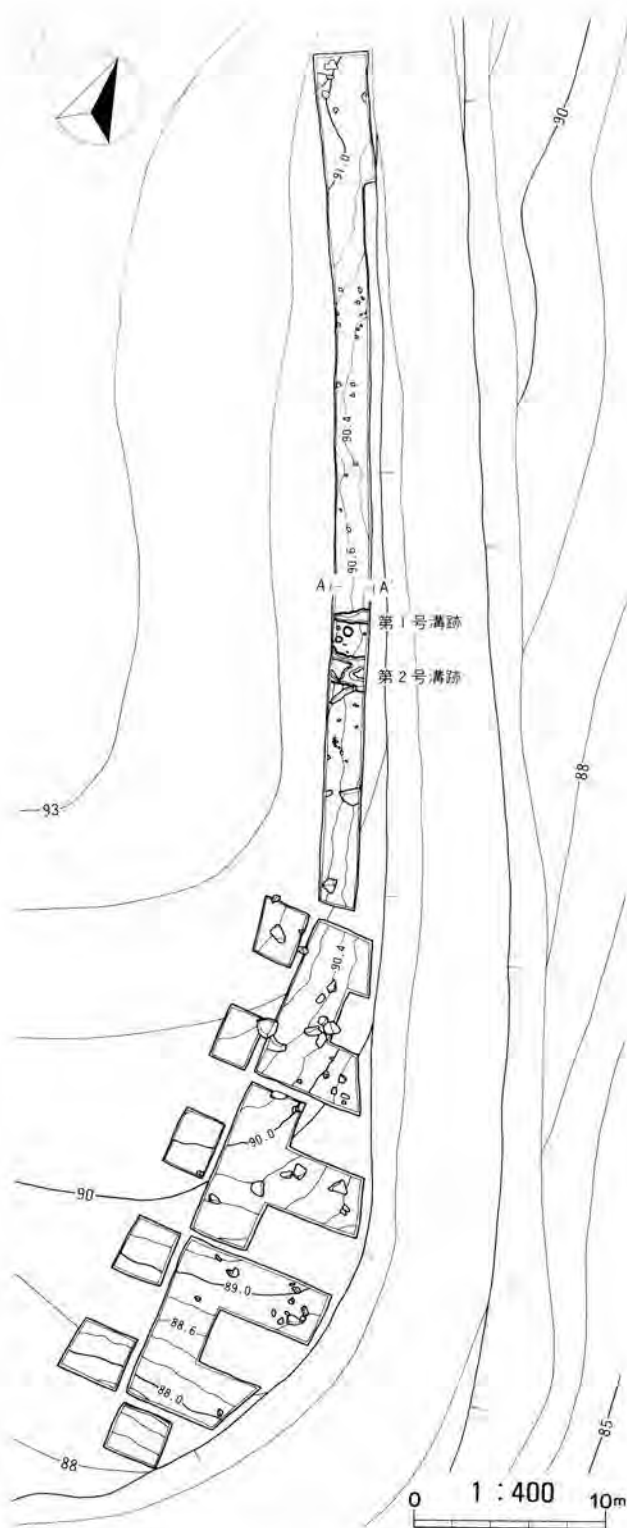
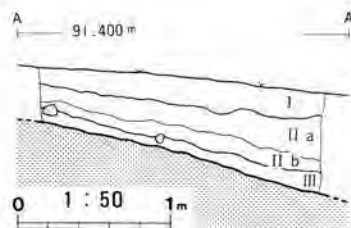
第1号・第2号溝跡はいずれも東西方向に、等高線と直交するように並ぶ。規模は、第1号溝跡が幅約50cm、深さ20cm～30cmで、第2号溝跡はH字状を呈し、幅は50cm前後で、深さは20cm～30cmである。

遺物は出土していない。

遺構外出土遺物（第24、25図）

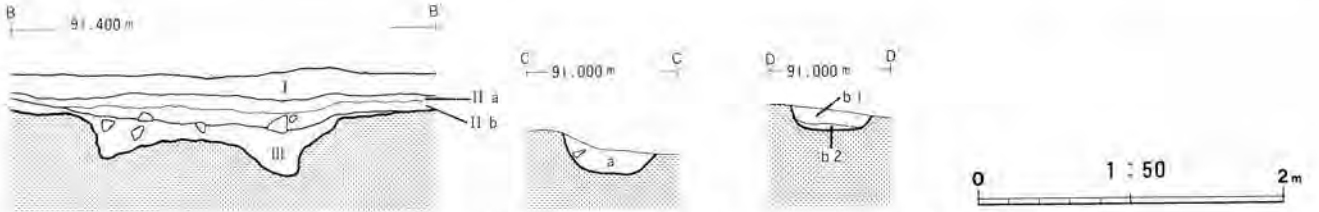
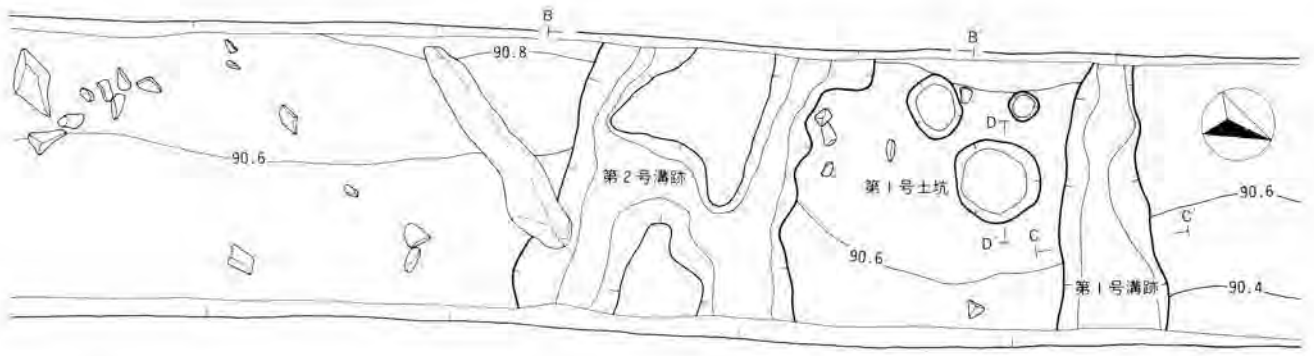
1～14は口縁部で、隆沈線によって施文される。15～20は平行沈線によって施文される。21～28は隆沈線によって施文され、28はキャリパー形深鉢である。34～37は沈線と磨消し縄文を施されている。38は一側面に磨面を持つ角礫である。

1～33は大木8b式、34～37は大木9式に伴うものである。



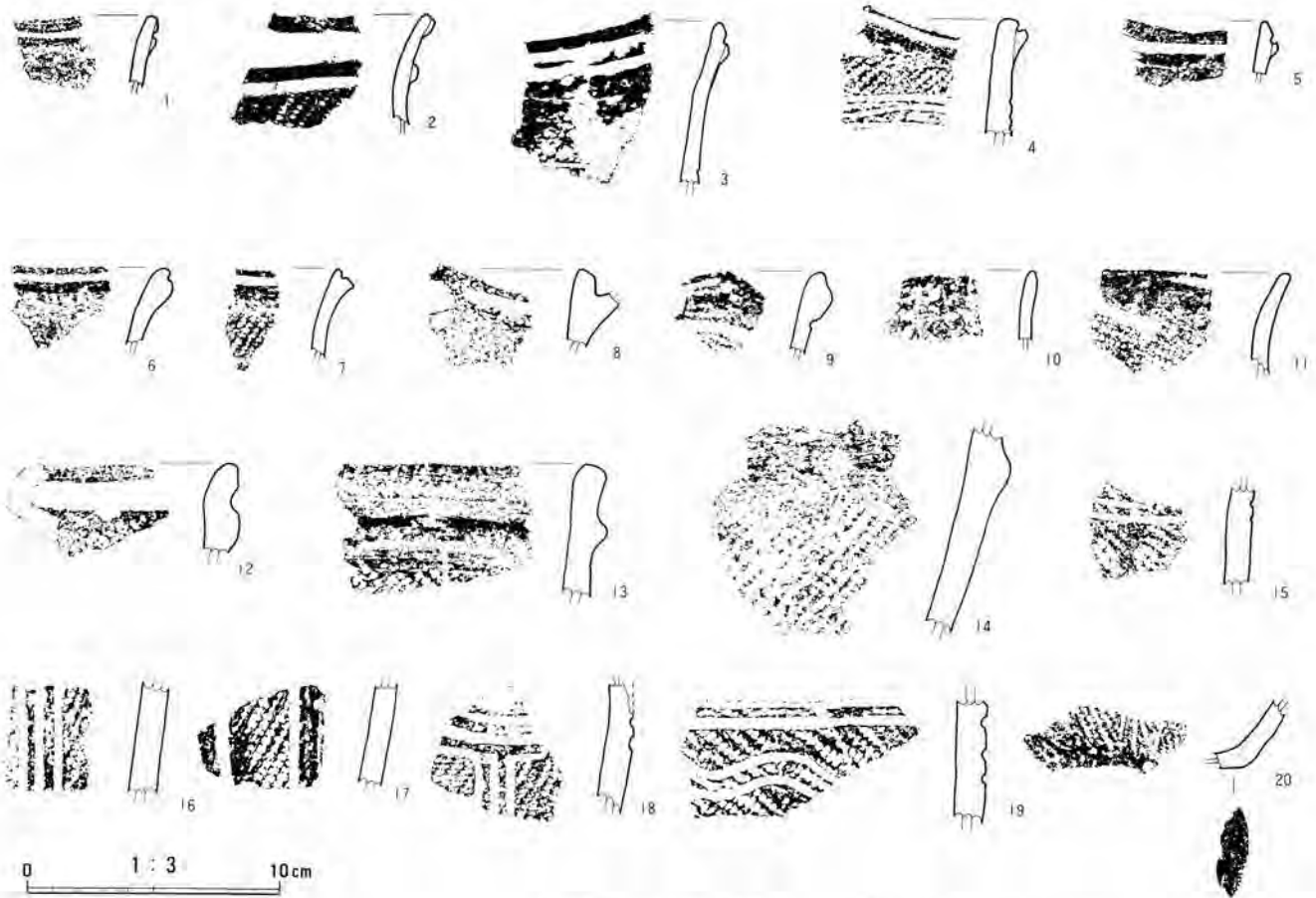
層名	基本土	混入土
表土 I	10YR3/4暗褐色砂壤土	10YR2/3黒褐色砂壤土15%塊状混入
黒褐色土 II a	10YR3/2黒褐色砂壤土	10YR2/3黒褐色砂壤土10%塊状混入 木炭粒を含む
黒褐色土 II b	10YR2/2黒褐色砂壤土	10YR2/3黒褐色砂壤土10%塊状、10YR3/3暗褐色砂壤土5%混入 木炭粒、礫含む
褐色土 III	10YR4/4褐色砂壤土	10YR3/4暗褐色砂壤土10%塊状混入 礫含む

第22図 第5調査地区（堺ノ神遺跡）全体図、土層断面図



第23図 第2号、第1号溝跡、第1号土坑平面図、土層断面図

層名	基本土	混入土	
埋土 a	10YR3/4暗褐色砂壤土	10YR3/2黒褐色砂壤土10%塊状、10YR4/4褐色砂壤土10%塊状混入	第1号溝跡埋土
埋土 b1	10YR3/2黒褐色砂壤土	10YR4/6褐色砂壤土3%塊状、10YR4/2灰黄褐色砂壤土10%塊状混入	第1号土坑埋土
埋土 b2	10YR4/6褐色砂壤土	10YR3/4暗褐色砂壤土3%塊状混入	



第24図 出土遺物

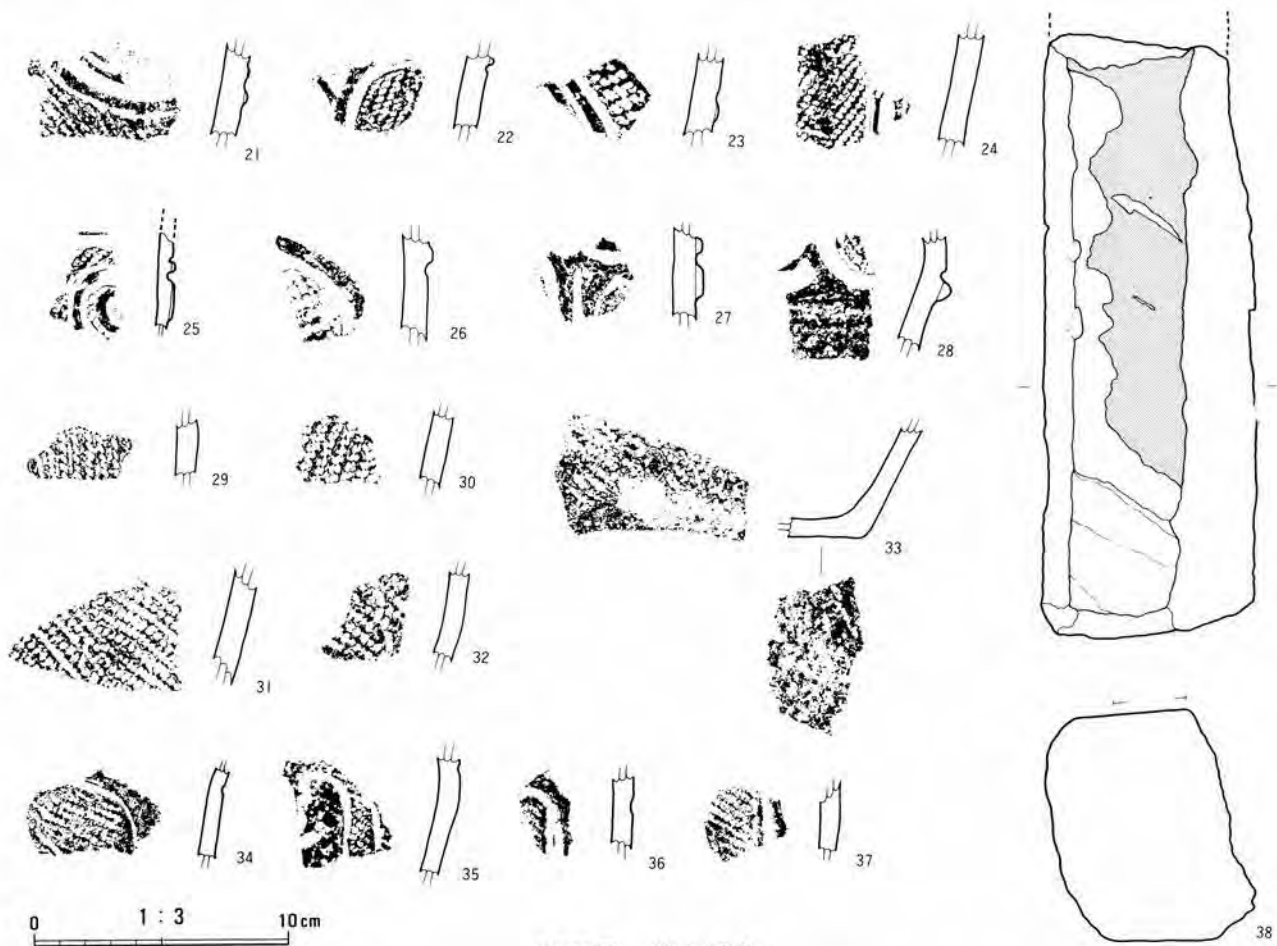
土器の出土区域

南半部→4, 15, 18, 19, 21-24, 27, 28, 34

北半部→1-3, 5-14, 20, 25, 26, 29-33, 35-38

4, 6, 12, 15-24, 27, 28, 33, 34, 36, 37 → I-II層出土

I-3, 5, 7-11, 13, 14, 25, 26, 29-32, 35, 38 → III層-地山面



第25図 出土遺物



調査区北部トレンチ全景（南より）

Photo.36



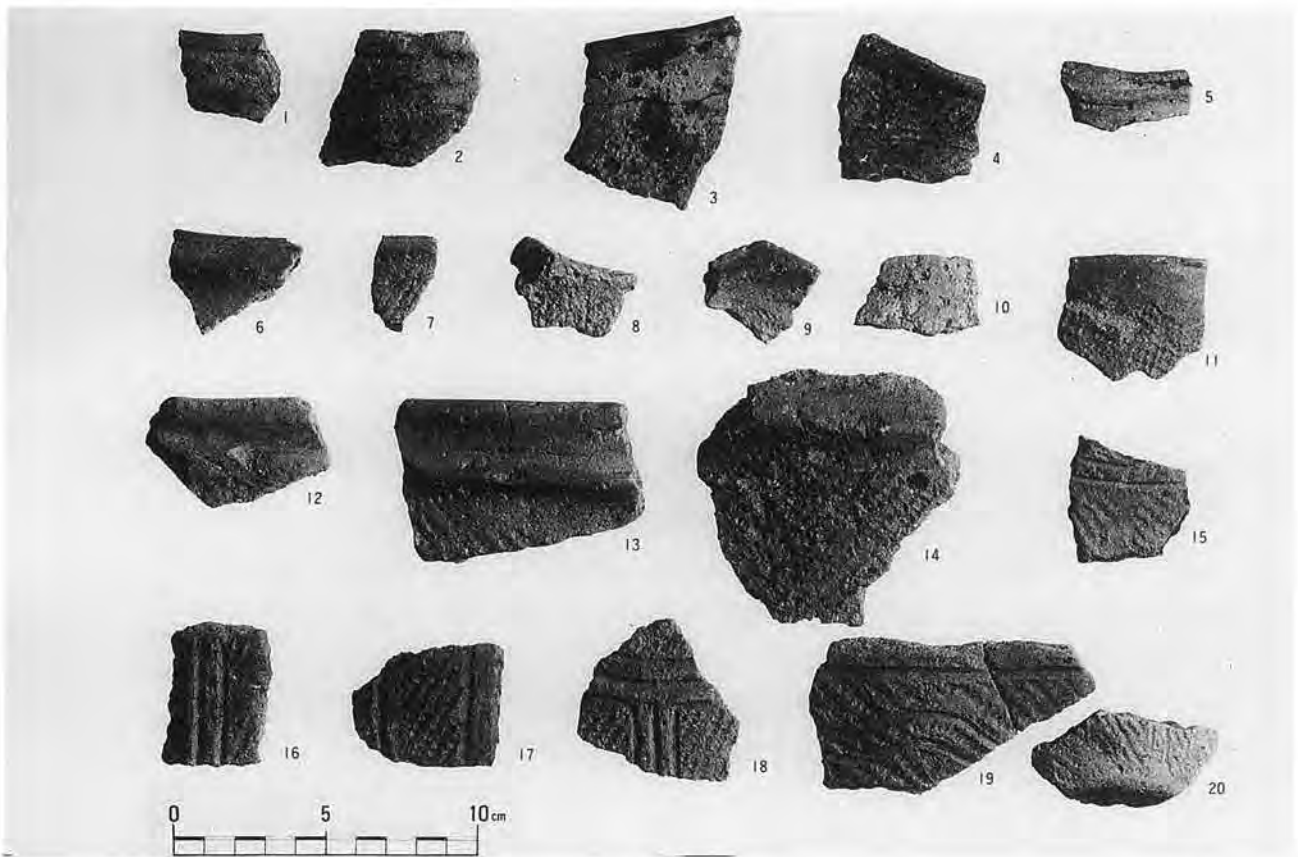
Photo.37

調査区南半部（南より）



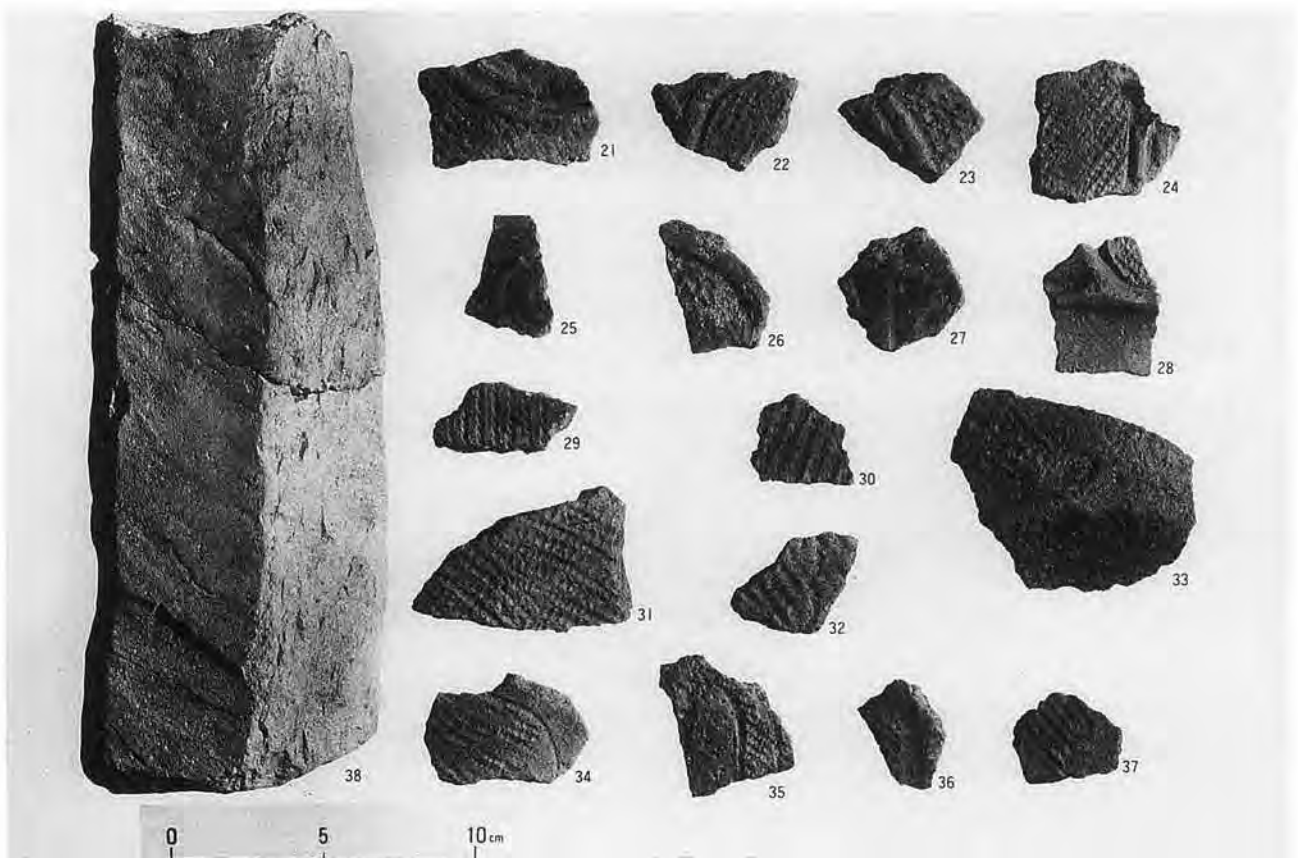
Photo.38

溝跡、土坑検出状況（南東より）



出土遺物

Photo.39



出土遺物

Photo.40

IV 調査のまとめ

笹沢 I 遺跡

条痕文土器については、時期的には東北地方南部の吉田浜下層土器、関東地方茅山下層式に併行するものと考えられる。

竪穴状遺構は、炉や柱穴が確認できず竪穴住居跡と断定できないものの市内でもっとも古い遺構であるだけでなく、条痕文土器が遺構にともなって出土した最古の例である。

加村遺跡

墓塚について

時期については、副葬銭の永樂通寶は17世紀初頭まで使用されており、中世～近世初頭の時期が考えられる。しかし寛永通寶などを伴っていないところをみると、中世の所産である可能性は大きい。副葬銭の状況や埋葬方法、埋葬場所など比較、検討すべき課題を残している。

フラスコ状土坑について

前述したようにすでに遺跡の主体部が既に破壊されており、その全容は知りようもなく、かろうじてフラスコ状土坑の時期について、出土遺物から大木9式に伴うものであることを確認できただけである。

また第1次調査の結果からみて、加村遺跡の北限を第2次調査区のNR区尾根のあたりと考えてよいと思われる。

堺ノ神遺跡

土坑、溝跡については、遺物も出土せず時代を特定できないばかりか、遺構の性格も不明である。溝跡については自然による浸食の可能性が大きいと思われる。

北半部で、大木8b式を主体とした遺物包含層を確認しており、この遺物包含層の西側に続く緩斜面には、何らかの遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

今回の調査で重茂半島の北部に分布する縄文時代の遺跡について、その時期や内容の一部を明らかにすることができた。また縄文早期の遺構、遺物が重茂半島で確認されたことは、市内の縄文時代の遺跡の展開を知る上で重要な意味をもつものと考えられる。

参考文献 熊谷 常正 1983 「岩手県における縄文時代前期土器群の成立
—条痕文系土器群から羽状縄文土器群へ—」
『岩手県立博物館研究報告』第1号 PP.45～65

相原 淳一 1990 「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年
—仙台湾周辺に分層発掘資料を中心に—」
『考古学雑誌』第76巻1号 PP.1～65

報 告 書 抄 録

ふりがな	ささざわ1いせき、 かむらいせき、 なかくみ3いせき、 さかいのかみいせき							
書名	笹沢 I 遺跡 加村遺跡 仲組 III 遺跡 堺ノ神遺跡							
副書名	市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	45							
編著者名	阿部豊、工藤剛司、竹下将男							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027 岩手県宮古市新川町2-1 TEL0193-62-2111							
発行年月日	1995年3月24日(平成7年)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃 〃 〃	東経 〃 〃 〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ささざわ I 笹沢 I	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあざおもえだ 大字重茂第29 ちわりあざへのさき 地割字戸ノ崎	03202	LG35-0184	39°38'03"	142°00'59"	19931116~ 19931129	160	市道浦の沢線改良工事に伴う事前調査
かむらい 加村 (第1次調査)	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあざおもえだ 大字重茂第29 ちわりあざへのさき 地割字戸ノ崎	03202	LG35-1123	39°37'55"	142°00'57"	19931130~ 19931210	1,370	
かむらい 加村 (第2次調査)	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあざおもえだ 大字重茂第28 ちわりあざせんぞく 地割字千束	03202	LG35-1123	39°37'55"	142°00'57"	19941011~ 19941218	421	
なかくみ III 仲組 III	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあざおもえだ 大字重茂第27 ちわりあざさかいのかみ 地割字堺ノ神	03202	LG35-1177	39°37'36"	142°01'11"	19931213~ 19931220	1,550	
さかいのかみ 堺ノ神	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあざおもえだ 大字重茂第27 ちわりあざさかいのかみ 地割字堺ノ神	03202	LG35-2117	39°37'24"	142°01'08"	19920601~ 19920718	450	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
笹沢 I	散布地	縄文早期	土坑 1基 竪穴状遺構 1基		条痕文土器 磨石			
加村 (第1次調査)	散布地	縄文	—————		—————			
加村 (第2次調査)	散布地	中世 縄文	墓 フラスコ状土坑 1基 土溝 1基 跡 2条		銭貨(永樂通寶、洪武通寶、他) 歯(ヒトの右上顎犬歯) 縄文土器			
仲組 III	散布地	縄文	—————		縄文土器(中期中葉)			
堺ノ神	散布地	縄文	土坑 1基 溝跡 2条		縄文土器(中期中葉)			

宮古市埋蔵文化財調査報告書45

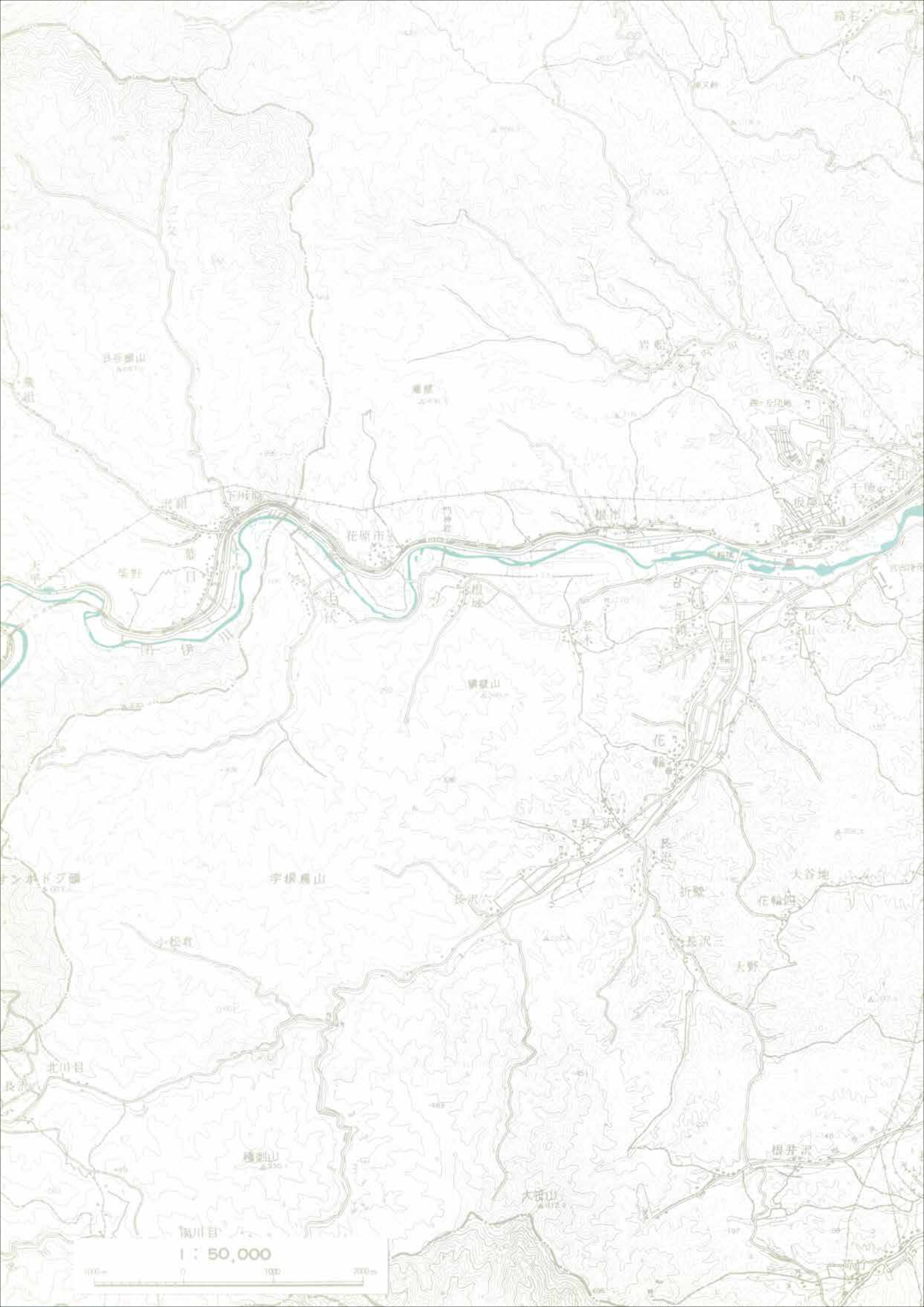
笹沢Ⅰ遺跡・加村遺跡
仲組Ⅲ遺跡・塚ノ神遺跡

市道浦の沢線改良工事関係
～埋蔵文化財発掘調査報告書～

1995.3

発行 岩手県宮古市教育委員会
宮古市新川町2番1号
Tel 0193-62-2111

印刷 花坂印刷工業株式会社
岩手県宮古市新川町1番2号



萩川
1 : 50,000